

FDreport

2024.3 vol.17

Doshisha Women's College of Liberal Arts, Founded in 1876.

同志社女子大学

CONTENTS

◆ 巻頭言 ◆

「真誠の自由を愛し、以て邦家に尽くさん」
～21世紀社会での高等教育研究機関の魁として～

学長 小崎 眞 ◆01

◆ 2023年度FD Session ◆

講演「はじめての生成AI」

同志社女子大学 余田 義彦氏 ◆03

◆ 2023年度大学院FD講習会 ◆

講演「女性社会人大学院生の学びを支える体制づくり」

北海道大学高等教育推進機構 石川 奈保子氏 ◆24

◆ 教育開発実践報告 ◆

◇ 学部

「学芸学部FD報告」

学芸学部長 椎名 亮輔 ◆55

「<学部の多様性を力に変える>～現代社会学部のFD活動～」

現代社会学部長 日下 菜穂子 ◆57

「薬学教育における医療プロフェッショナリズムを考える」

薬学部長 芝田 信人 ◆58

「看護学部FD報告」

看護学部 高城 智圭 ◆60

「『表象文化café』の意義と可能性」

表象文化学部長 鈴木 健司 ◆62

◆ 教育開発実践報告 ◆

◇ 学部・大学院研究科

「認証評価の指摘を受けて」

～「生活科学部・生活科学研究科FD研修（仮称）」スタート～

生活科学部長/生活科学研究科長 山本 寿 ◆64

◆ 教育開発実践報告 ◆

◇ 大学院研究科

「文学院文学研究科FD報告」

文学研究科長 椎名 亮輔 ◆66

「文学院国際社会システム研究科FD報告」

国際社会システム研究科長 日下 菜穂子 ◆67

「大学院FD・大学院教育への取り組み・研究室紹介：医薬品製造化学研究室」

薬学研究科長 芝田 信人 ◆68

「大学院看護学研究科FD報告」

看護学部看護学科主任 小松 光代 ◆71

◆ 2023年度春学期 授業に関するアンケート 総評 ◆

教育開発支援センター長 和氣 早苗 ◆72

◆ ラーニング・コモンズ 利用報告 ◆

◆79

◆ FD活動報告(2023年度) ◆

◆91

◆巻頭言◆

「真誠の自由を愛し、以て邦家に尽くさん」
～21 世紀社会での高等教育研究機関の魁として～

学長 小崎 眞

FD レポート第 17 号の刊行にあたり、今年度の FD 活動にご尽力並びにご貢献いただきました皆さまに感謝申し上げます。

さて、21 世紀社会における大学自体の社会変革への寄与が期待され、大学人相互の FD (Faculty Development) 活動の重要性が指摘され、種々の具体的取り組みが実践されています (清水一彦「大学設置基準の大綱化と大学の変貌」1994 参照)。文部科学省の HP には、FD に関して次のように紹介されています。

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。

(「大学教員のファカルティディベロップメントについて」文部科学省)

FD は時代の転換期に対応した高等教育現場での本質的意識改革の始まりを示唆し、当事者 (教授者・非教授者・スタッフなど) の教育観の再構築を促す活動と言えるのかもしれませんが。本学も大学という研究・教育「協働態」の一つとして同様の流れの中にあります。特に 18 歳人口激減という人口減少社会、加えて「常在危機：コロナ禍・戦禍等」を起因とする社会環境の変容に対峙しつつ、女性を対象としている高等教育・研究機関である実情に鑑み、「意識改革」と「資質能力向上」への弛まぬ努力は喫緊の課題であると言えます。ゆえに、本学での FD 活動は、本学の将来を左右すると言って過言ではありません。

そこで FD 活動の一助になることを期待し、以下に新島襄の遺言の一部を紹介しつつ、彼の教育姿勢の一端の読み解きたく思います。

同志社教育の目的は其の宗学政治文学科学等に従事するニ係らず皆精神活力あり「真誠の自由ヲ愛し、(欄外へ補筆)」、以て邦家ニ尽す可き人物を養成するを務む可き事(『新島襄全集』第 4 巻 403 頁)

遺言自体は徳富蘇峰が新島の枕元で口頭筆記したと言われております。多分、既に新島は瀕死状態であり、徳富は懸命に耳を傾けて記したと考えられます。しかしながら、徳富は重要なキーワードを聞き落したのかもしれませんが。それが欄外に加筆された「真誠の自由ヲ愛し」という表現です。加筆が有るか無いかで、遺言の主旨が全く異なることとなります。無かった場合、同志社の教育の目的は、どんな学問であれ精神力があり、それによって国家に尽くすように人物養成に尽きることとなります。換言すれば、国家に尽くすための教育となります。奇しくも、新島が亡くなった 1890 年に『教育ニ関スル勅語』が発

布されます。ご存知のように、この勅語は国家のための教育を求めたものです。欄外の表現が加筆されなかったら、新島の遺言は『教育勅語』と同様の内容を表すことになってしまいます。

「目標が変わると大切なものが変わる」との表現を耳にしたことがあります。目的や目標をしっかりと見定めておかないと、その中身（本質）を見失うとのことです。上述の欄外の言葉がない場合、学問の目的を国家に置くことで、学問を国家の近代化の道具として用いることへと陥ってしまいます。一方、新島は国家より「人一人」、「真実なる自由」に根ざした「人物養成」を目標とすることで、国家の有用性から解放された教育観を抱いていたと言えます。FD 活動においても、目指している方向を常に見極める必要があるように思われます。FD 活動のための FD 活動へと陥りやすい傾向に抗い、「教育の目的は、人才養成にあらず、人物養成の意なり」との新島襄の警鐘に傾聴しつつ、FD 活動の本質を醸成すべく努めたく思います。21 世紀社会にあって、「真理の複数性」を尊重しつつ、多様化社会に呼応すべく縦横無尽な取り組みが一層展開されることを期待しています。

◆2023 年度 FD Session◆

日時：2023 年 9 月 1 日（金）9：00～9 月 30 日（土）23：59

視聴方法：マナビーの F D 関連 info. (2023) より視聴

テーマ：「はじめての生成 AI」

講師：同志社女子大学 名誉教授 余田 義彦先生

「はじめての生成 AI」

同志社女子大学 名誉教授 余田 義彦

■ 1. 基礎知識

● はじめに



こんにちは。メディア創造学科元教員の余田です。この動画ではマスコミ等で最近よく話題になる生成 AI と呼ばれる人工知能について初歩的な解説を行います。今回紹介する生成 AI は、皆さんがお使いの Windows や Mac などの普通のパソコンで特にお金をかけずに使い始めることができます。

使ってみるとなかなか楽しくて便利なものです。この動画を通して生成 AI とはどのようなものかざっくり掴んでいただき、授業や研究活動などで役立てていただければと考えています。この動画の途中で、実際に生成 AI を操作してみる体験も設けたいと思っています。ですので、自信を持って AI を使っていただくことができるようになります。どうぞ最後までお付き合いください。

AIチャット

ユーザーの様々な質問や命令に高度に対応してくれるチャットシステム

… Chat GPT、Google BARD、Microsoft Bing

アウトライン

1. 基礎知識
2. 使ってみよう
3. 生成AIと教育

生成 AI は人工知能の一種として、文章を生成するもの画像生成するもの動画を生成するものなど様々なものがあります。

その中で、今回は文章を生成する AI チャットを取り上げます。AI チャットはユーザーの質問や命令に柔軟に高度に対応して応答を返します。ChatGPT が有名ですが、Google 社の Bard や Microsoft 社の Bing などもあります。今回の動画ではこの 3 つ全部を取り上げます。

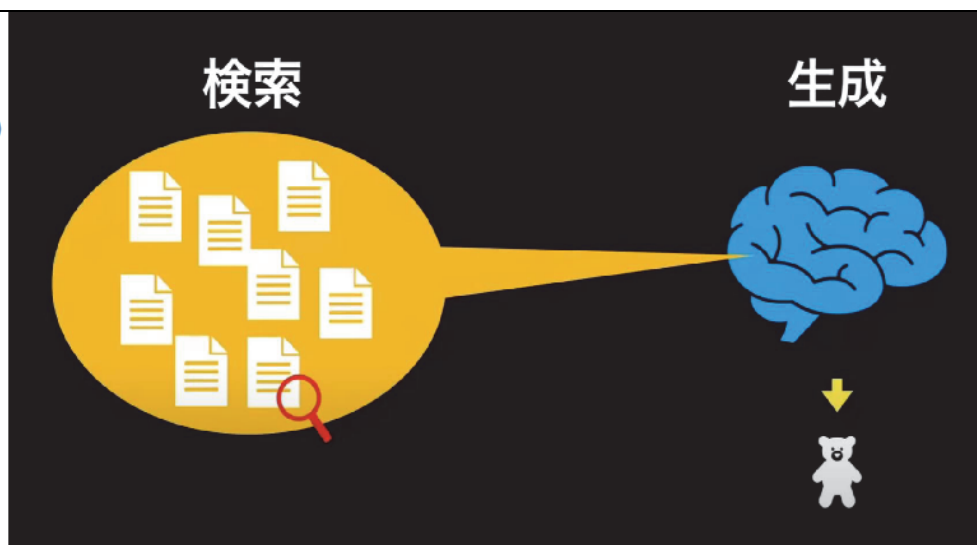
今日の話の流れですが、まず最初に最低限知っておいていただきたい知識を解説します。次に生成 AI の使い方や特徴について、実際の操作体験を通して理解していただきます。

最後にこれから私たち教員は生成 AI にどのように対応していけばよいか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

●生成 AI で何が変わるか？

それでは基礎知識の解説から始めたいと思います。

生成AIで 何が変わる か？



【画像出典】清水 亮「緊急対談！今AI業界に何が起きてるのか？！shi3zさんに聞いてみた！」
散財小説ドリキン第1769話 <https://www.youtube.com/watch?v=KqTUclDwt8g>

■これまで 検索

■生成AI以降 検索→情報をもとに知識を生成

まず、最初に生成 AI の登場で何が変わるのかについて話しておきたいと思います。

何がすごいのかということです。これまで私たちはネット上にある情報を Google で検索していました。コンピューターの画面上に表示されているのは、誰かが発信した情報です。私たちはその情報を参考にして、自分の頭で知識を作り上げていました。

例えばクマの絵を書きたいとします。その場合、クマをキーワードにして検索して写真や解説記事など様々な情報を集めます。それをもとにして、クマとはこういうものかというイメージを頭の中に描き出し、それを元にしてクマの絵を描いていたわけです。

それに対して、生成 AI では AI がネット上にある様々な情報を学習して知識を持ちます。そして、人が AI に情報を求めますと、あらかじめ学習していた知識をもとにして、ピッタリの情報を生成します。

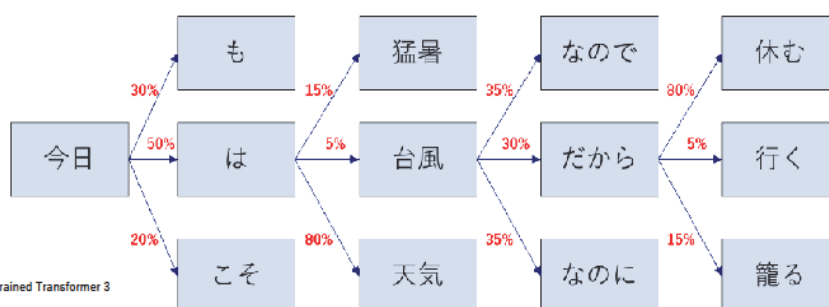
先ほどの例で説明しますと、AI はネット上にあるクマの写真や解説記事などを学習してクマについての知識を持っています。そして、ユーザーがアッカンベーをしているクマの絵が欲しいと言いますと、そのようなクマの写真はどこにもないわけですが、その場でお願いにぴったりのアッカンベーをしているクマの絵を描いてくれるわけです。

これまで文化や文明を創造してきたのは人類だったわけですが、それをコンピューターが人類に代わってやってしまうというわけですから、大変な話になり始めていることになります。

動作原理

■言葉と言葉の連鎖を出現確率でモデル化した言語イメージを「言語モデル」と呼ぶ。様々な状況で話されたり書かれたテキストを学習させると「大規模言語モデル」ができる。それを使い、**文脈（その言葉が使われる背景や前後の状況）を設定**して、そこでよく使われる言葉の連鎖を出力（生成）する。

■**文脈をきちんと設定すると、それにぴったりの文章を作成できる。**
 ⇨文脈を設定しないと、もっともらしい適当な文章をする。



【画像出典】野村総研 用語解説：GPT-3 Generative Pre-trained Transformer 3
https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/1st/alphabet/gpt_3

●動作原理

AI チャットの動作原理について、ChatGPT を例としてざっくり説明しておきたいと思います。ChatGPT の心臓部には「GPT」と名付けられた「言語モデル」が入っています。言語モデルとはごく単純化して説明すると私たちが話したり、書いたりしているテキストの中の言葉と言葉のつながりを出現確率でモデル化したものです。

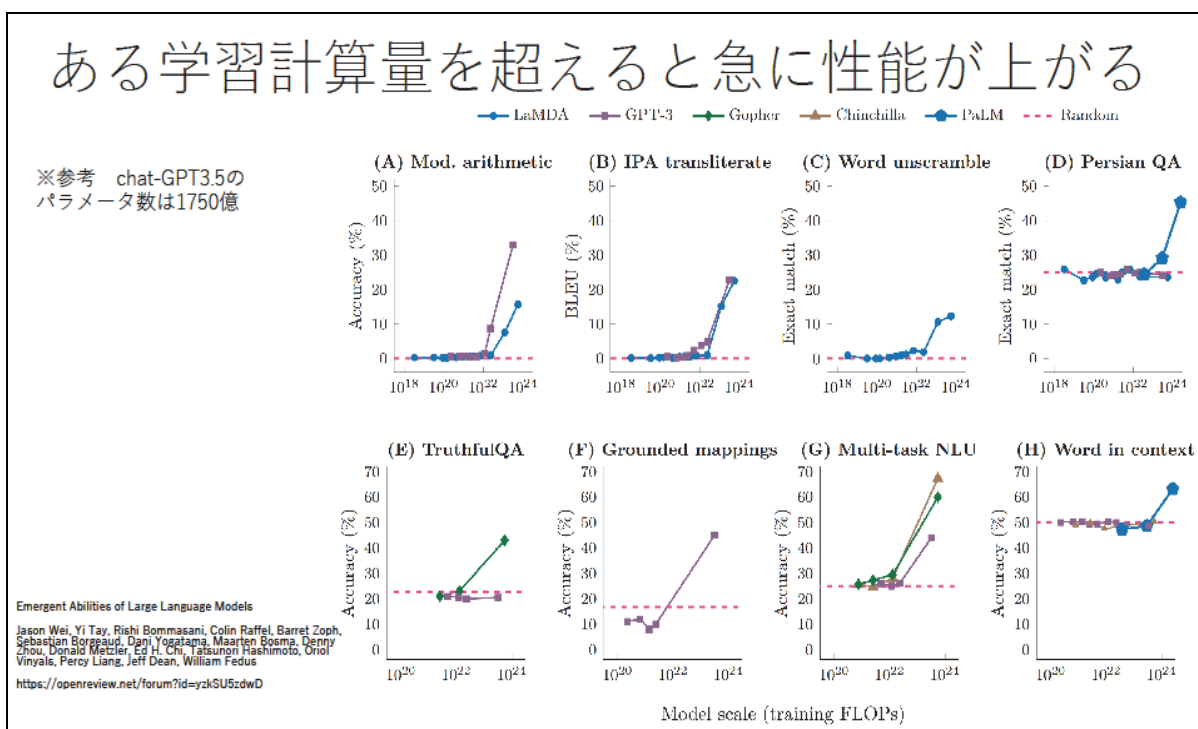
例えば、「今日」というと、その後に「も」が来る場合も、「は」が来る場合も、「こそ」が来る場合もあります。こういう言葉の連鎖をモデル化したものが言語モデルです。この言葉の連鎖の仕方は真夏である8月、台風の季節である9月、秋晴れの10月というように季節によって変わってきます。

その言葉話す人、その言葉が話される状況によっても様々に変わってきます。そうした様々な文脈の中で話された大量のテキストを学習させていくと、「大規模な言語モデル」が出来上がります。

そのモデルを使うと。文脈つまり、その言葉が使われる背景や前後の状況を設定することで、そこでよく使われる言葉の連鎖を上手に予想して生成できるようになります。そのような方法で文章を次々生成していくのがAIチャットです。

そこで、重要なことは「文脈」をきちんと設定するということです。そうすれば、それにぴったりの文章を生成してくれます。逆に言うと文脈を設定しないと、もっともらしい、適当な文章しか返しません。テレビやラジオで ChatGPT がネタとして取り上げられることがありますが、パツとしない応答や変な応答が返ってきたというオチになることが多いです。あれは文脈の設定が不十分だからです。

さて、皆さんは今の説明を聞いて、AI はそんな単純なことをしているのかと驚かれたかもしれません。



これは昨年、2022 年 9 月に発表された論文に載っていたグラフです。

グラフは AI に与えた課題ごとに描かれていて、縦軸は回答の精度、横軸は学習量を表しています。どれも右上がりです。AI に膨大な情報を学習させていくとある時、突然賢くなることが最近の研究で分かってきました。

余談ですが、AI にこのように大量に学習をさせると電気代がものすごいことになるそうです。大学の研究費ではとても賄えない金額だそうで、大金を投じることができる企業でしかできない研究だということです。

OpenAI 社のすごいところは、このような研究成果を ChatGPT を使って無償で一般公開したことです。そのことによって Google も Microsoft も後に続かざるを得なくなりました。

画像の生成 AI については、さらにその先を行っていて、昨年、夏に無償公開された Stable Diffusion という AI ソフトが先鞭をつけました。画像生成 AI は様々な写真や絵を学習して得た知識で画像を生成します。

画像の細部について、その形状や材質でなければならない理由や、他のものとの関係などについては無関心なので、対象の観察が不十分になってうろ覚えの知識になっていることがあります。

人を描かせると手の指の数を間違ってしまうことなどがその例です。最近知った話ですが、AI にバナナを描かせると房のバナナを描いてしまって、なかなか 1 本のバナナを描いてく

れないそうです。AI はバナナを食べた経験がないからだと思います。

私たちの知識や文化はその多くが言葉で記述されています。ですので、それをもとにして言葉の連鎖で情報を生成していくことはそこそこ有効です。現在の生成 AI はとても優秀で賢いですが、同時に限界もあります。そのことを理解した上で使うようにしてください。

図書館に収蔵されている図書（あらゆる分野の情報）に精通している図書館司書（AI）と対話して、自分に必要な図書（情報）を選んで提供（生成）してもらうイメージ

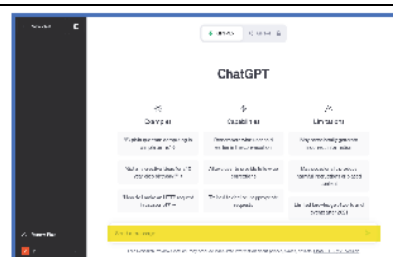
プロンプト＝生成AIに与える指示 プロンプトによって応答が変わる

チャットが使われる理由---

何度かのやりとりを通して欲しい情報を生成していく。

Attentionという仕掛けでプロンプトから注目する単語を選び出しそれに基づいて効率よく最適な回答を生成する。

Temperatureという変数を持っており、その値を調整することで、同じプロンプトでも毎回違った回答を生成したり、回答傾向（創造的⇔厳密）を調整したりする。



●プロンプトの基本

話を戻します。AI チャットのイメージですが、私は図書館の司書さんと対話するイメージでとらえています。

図書館に収蔵されている図書に精通している図書館司書さんに図書を選んでもらうイメージです。図書館司書さんを AI チャット、図書を情報に読み替えてください。これこれこういう情報が欲しいとお願いすると、それにぴったりの情報を生成してくれると、まあそういうイメージです。

調べてる分野にあまり詳しくない新生がお願いすると入門レベルの情報を返してくれます。でも、卒論に取り組んでいる学生が専門用語を使って質問すると、専門書レベルの情報を返してくれます。お願いの内容や表現の仕方によって相手が求めていることを探り、それにぴったりの情報を返してくれるのです。

右上の画面は ChatGPT のスクリーンショットです。黄色マーカーを塗った部分が入力欄で、ここに指示を普通の日本語で入力します。生成 AI に与える指示のことを「プロンプト」と言います。プロンプトの内容によって返してくる応答が変わります。

一度のプロンプト入力だけで欲しかった情報を得られることはまれで、何度かやり取りを繰り返す必要があります。このやり取りは会話形式で行いますので、AI チャットと呼ばれ

ています。

Attention (アテンション)、注意という仕掛けを使ってプロンプトから注目する単語を選び出し、それに基づいて最適な回答を効率よく生成するようになっています。

それから、Temperature (テンペレーチャ)、温度という変数を持っており、その値を調整することで、同じプロンプトでも毎回違った回答を生成したり、回答傾向、例えば創造的か厳密かといった事柄を調整するようになっています。

プロンプトの基本

■プロンプトは4つの要素で構成される。

例 私は大学教員です。担当科目の授業で欠席が多い学生に注意を促す次のようなメールを書いてみました。少し厳しめの文面になったので、もう少しマイルドな表現に変えたいと思っています。メールを書き換えてみてください。###〇〇△△さん こんにちは。余田です。あなたは必修科目「ネットワーク概論」の授業を4回欠席しています。(以下、続く) ……

- **文脈** – AIに役割・立場を与え、背景や前後の状況も伝える
例 「プロフェッショナルなライターとして」「あなたは、売れっ子のコピーライターです」「小学校の先生として答えてください」
- **命令** – やって欲しいこと（タスク）を具体的に説明する
例 （複雑なことをさせたいとき）「ステップ・バイ・ステップで考えて下さい」
- **入力** – 処理して欲しいデータ（テキストなど）を指定する
命令と入力の間は###で区切るとよい。
- **出力** – 出力の表現方法を指定する
例 想定する読者、字数、文体、見出しの付け方、箇条書き、表形式、エクセルに読みこめるCSV形式など。

いつも4つの要素すべてが必要なわけでない。必要に応じて加える。

AI チャットではプロンプトを上手に書いて命令を伝えることが重要になります。プロンプトは一つの文でなく、複数の文で記述することもあります。プロンプトを上手に書くためのノウハウは「プロンプトエンジニアリング」と呼ばれています。

この動画ではプロンプトエンジニアリングの詳細について深入りしませんので、興味がある方は YouTube などプロンプトエンジニアリングをキーワードにして解説動画を探してみてください。ここでは知っておく方がよい最低限のことだけを紹介しておきます。

プロンプトは4つの要素で構成されています。文脈、命令、入力、出力の4つです。

- **文脈**。AI に役割や立場を与えて、背景や前後の状況などを伝えるようにします。例えば「プロフェッショナルなライターとして」とか、「あなたは売れっ子のコピーライターです」とか、「小学校の先生として答えてください」というような役割を与えるわけです。
- **命令**。やって欲しいことを具体的に説明します。例えば、複雑なことをさせたいときはステップバイステップで考えてくださいとお願いすると良いと言われています。
- **入力**。処理して欲しいデータ、例えばテキストなどを指定します。先ほどの命令と入力の

間は####などの方法で明確に区切るようにします。

・出力。出力の表現方法を指定します。例えば想定する読者、字数、見出しの付け方、箇条書き、表現形式、Excel に読み込める CSV 形式などです。例えば大見出しは 1、2、小見出しは (1)、(2) と番号を振って文書でまとめてください、というようにお願いします。

プロンプトにこれら 4 つの要素がいつも全て必要というわけではありません。必要に応じて、これらの要素を加えると良いプロンプトができます。

AIチャット

ユーザーの様々な質問や命令に高度に対応してくれるチャットシステム

… Chat GPT、Google BARD、Microsoft Bing

アウトライン

1. 基礎知識
2. 使ってみよう
3. 生成AIと教育

- マナビーの研修用コンテンツを使って実習を行います。
- Webブラウザは何でもかまいませんが、MicrosoftのAIチャットBingを使ってみたい方は、WebブラウザとしてMicrosoftEdgeを使用してください。

■2. 使ってみよう

それでは実際に生成 AI を使ってみましょう。

これからはマナビーの研修用コンテンツを使って実習を行います。Web ブラウザは何でも構いませんが、Microsoft 社の Bing を試してみたい人は、Microsoft Edge を使うようにしてください。これからブラウザのタブを切り替えて、マナビーのコンテンツと AI チャットを使っていきます。

使い方がよくわからない方は、動画を一通り見ておいてから後で AI チャットを操作してみてください。

《作業しています》

今回使用する AI チャットは ChatGPT、Bard、Bing の 3 つです。先ほども申しましたように Bing を使ってみたい方は、Microsoft Edge のブラウザを使って、このページをまず表示し

てください。

ChatGPT には 3.5 と 4 があります。両者の違いは使用している大規模言語モデルの違いです。3.5 は無料、4 は有料です。4 の方が学習量が多くて、性能が上で、新しい実験的な機能をいろいろ試すことができますが、今回は無料の 3.5 を使うことにします。

3.5、4 とともに 2021 年 9 月までに学習した知識を使って情報を生成するようになっています。そのため、それ以降の出来事については答えることができません。

それでは ChatGPT を開いてみましょう。使用開始するにはログインが必要で、アカウントを持っていない場合は、サインアップつまり利用者登録が必要になります。Google や、Microsoft、Apple のアカウントを持っていればサインアップに使うこともできます。では、ログインします。これが ChatGPT の画面。タブを切り替えてマナビーのコンテンツ画面に戻りましょう。

次は Bard です。Bard は Google 社製の AI チャットです。無料でサイン不要です。では、Bard を開いてみましょう。これが Bard の画面です。では、再びマナビーのコンテンツに戻りましょう。

3 つ目は Bing です。これは Microsoft 社の AI チャットです。Bard と同様にサインインは不要で、GPT4 を無料で利用できること、検索して最新の情報を回答してくれること、参照ウェブサイトを教えてくれること、画像検索や音声入力など売りが多くあります。しかし、独自のチューニングをしているらしくて、回答が短文であることなど、ChatGPT とは動作が相当に違うので驚かれるかもしれません。

では、Bing を開いてみましょう。これが Bing の画面ですが、一番上に「チャット」というメニューがあります。このチャットを選びましょう。これが Bing の AI チャットの画面です。では、再びマナビーのコンテンツに戻りましょう。

それでは早速いろいろ試してみましょう。活動は 1 から 7 まであります。それぞれの解説が終わるたびに動画を止めて自分で AI チャットを試してみてください。

●活動 1 テキスト生成がうまい

生成 AI はテキスト生成がなかなかうまいので、今から試してみましょう。次の 2 つのプロンプトをコピーで入力して、回答の違いを比べてみるということをやってみます。

まず、最初に「同志社女子大学のメディア創造学科に入学した新入生のためにメッセージを下さい。」というプロンプトを ChatGPT、Bard、Bing に入力してみましょう。まずコピーをします。

《ChatGPT》

ChatGPT のタブを開いて、「Send a message」のところに右クリックで貼り付けます。右の「Send message」ボタンを押します。

同じプロンプトでもう一度テキストを生成したい場合は、ここに「regenerate」ボタンというのがあります。このボタンを押すと、また違うテキストを生成してくれます。押してみましょう。

いかがでしょうか？ 最初に生成したテキストを見たい場合は、ここの 2/2 のところを左向きの矢印（<）を押します。ドン！。そうすると最初のテキストが出てきます。2 つ目はここ（>）で、2 つ目のテキストが出てきます。生成したテキストを読み上げませんが、皆さんは確認してみてください。

《Bard》

次に Bard で同じプロンプトを使ってテキストを生成させてみましょう。Bard のタブを開きます。「ここにメッセージを入力してください」とありますので、右クリックで貼り付けます。「送信」ボタンを押します。

そうしますと、このような先ほどとはまた違うメッセージを生成してくれます。この上のところに「他の回答案を表示」というボタンがあります。これを選びますと、回答案 1、回答案 2、回答案 3 の 3 通りのものを生成してくれます。

いま、1 が表示されていますが、2 を表示しますとこうなります。3 を表示しますと、こうなります。ここの回答案を再生成のボタンを押しますと、さらに生成してくれるようになります。

《Bing》

次は Bing を試してみましょう。Bing のタブを開きます。Bing の場合は最初に会話のスタイルを選択とあります。「より創造的に」「よりバランスよく」「より厳密」になります。これを変えることで生成するテキストのスタイルが変わってきます。ここでは「バランスよく」を選んで、右クリックで先ほどのと同じプロンプトを貼り付けます。はい。「送信」。

しばらく待ちますと。はい、このような感じです。

Bing の場合は、テキストを生成した後に、それに関連する「同志社女子大学のキャンパスライフについて教えてください。」「メディア創造学科で何を勉強することができますか？」というような、先ほどのプロンプトに関係するようなプロンプトを提案してきます。これを選びますと。さらなるテキストを生成してくれます。

Bing は情報を検索しながらテキストを生成していきますので、このように表示が少し遅くなります。

もう一つのプロンプトを試してみましょう。「あなたは同志社女子大学メディア創造学科の教授です。学科の新入生のためにメッセージをください。」このプロンプトを。先ほどと同じように。生成 AI に読み込ませてみましょう。

《ChatGPT》

まず ChatGPT からです。テキストを貼り付けます。「Send message」。

ちょっと画面が変わってないように見えるかもしれませんが、スクロールするとテキスト

を生成してくれています。

はい、先ほど生成したテキストと今回生成したテキストの違いを読み比べてみてください。今回は教授として役割を設定していますので、先生らしいテキストが生成されていると思います。先生は話が長いので文章も長くなっているかもしれません。ここでは ChatGPT についでにだけ試しましたが、Bard でも、Bing でも同じように先ほどのプロンプトを貼り付けて、どのようなテキストを生成するか、また違いを見比べてみてください。

●活動2 テキストの推敲もうまい

AI チャットはテキストの推敲も上手ですので、それを試してみましょう。

次の文を推敲してください。#### 脱出の失敗・成功は関係なく、非体験型脱出ゲーム／リアル脱出ゲームの両者ともに、チームワークを構成する7つの要素が大きく働いていることが明らかとなった。

《ChatGPT》

これを右クリックしまして、コピーを選び、ChatGPT に貼り付けることにします。新しいテーマで AI チャットを使うときは過去の会話をリセットします。ChatGPT の場合は「+New chat」を押して、先ほどのプロンプトを貼り付けます。「Send message」。このように推敲しました。

《Bard》

同様のことを Bard でやってみましょう。Bard を選び。「+チャットを新規作成」を選びます。プロンプトを貼り付けます。

推敲結果をよく見ると、このように元の文章になかった新しい情報が加わっています。Bard はこのように新しい情報を加える場合がありますので、注意が必要です。

《Bing》

Bing についても試してみましょう。Bing の場合は、この最初のところで「新しいトピック」を選びます。過去の会話をリセットして使います。同様に貼り付けます。「送信」。

●活動3 出力形式を変えてみよう

出力形式を変えてみようと思います。最初の AI チャットの説明文があります。このテキストを表形式に整理し直してみましょう。

《ChatGPT》

ChatGPT で試してみます。「+New chat」。先ほどのテキストを貼り付けて。その後、これが入力になります。#### 次の文章を表に整理してください。「送信」。

このようになりました。ちょっと画面が隠れていますが、(右ドラッグして) このように見ますと、項目としては「提供会社」、「利用料金」、「サインインの可否」、それから「特徴」といった要素が提示されています。これをコピーして、例えば Excel などに貼り付けるとか Word に貼り付けるとかすれば、文章を表の形式でまとめ直すことができます。

《Bard》

同様のことを Bard でやってみましょう。プロンプトをそのまま使いましょう。

「+チャットを新規作成」。貼り付けます。

このようにしますと。まだちょっと表現が変わりました。列の項目を増やしてみようと思います。

そうすると、先ほどは特徴としてこのようなものですが、項目が、「特徴」「価格」「サイン」「言語」という風に増えています。

Bing については皆さんの方で試してみてください。

●活動4 文脈や出力形式を変えてみよう

文脈や主力形式を変えてみよう。文脈を丁寧に設定して出力形式も変えてみたいと思います。1、2については自分でやってみてください。3番目をやってみましょう。販売員と客とのやり取りの台本を表示するプロンプトを考えて入力してみよう。

思い通りの結果が返ってこなかった時は、追加の指示をプロンプトに入力して、期待通りの回答が表示されるようにしよう。ちょっとプロンプトの例を書いてみました。これをコピーしてうまく生成してくれるか見てみたいと思います。

《ChatGPT》

コピーして。ChatGPT にします。「+New chat」にして先ほどのテキストを貼り付けます。

「Send message」。

台本が生成されました。

《Bing》

では、Bing について同様のことをやってみましょう。Bing で「新しいトピック」を選んで（プロンプトを）貼り付けます。

「こんにちは。この店の販売担当です。カメラ興味がありますか？一眼レフカメラや。ミラーレスカメラ…。どんなシーンや被写体を撮りたいですか？」で止まっています。「続けて」というふうに入力してみましょう。

そうすると。続きが生成されていきます。内容を読んで足りない場合は、「続けて」というようなプロンプトを入力して続きを生成させるようにします。

Bard でも面白い応答が見られます。ここでは割愛しますが、皆さんの方で試してみてください。

●活動5 情報検索を試してみよう

情報検索を試してみましょう。これはもう私の方でプロンプトの例を考えてみましたので、それを試してみたいと思います。「生卵のスーパーでの価格変動をグラフで見たいと思います。そのような情報を提供してくれるサイトを教えてください。」

《ChatGPT》

ChatGPT と Bing について試してみましょう。まず、テキストをコピーして、ChatGPT で「+New chat」を選び、（プロンプトを）貼り付けます。

最新のウェブサイト情報を提供できないという回答が返っています。

《Bing》

次に Bing で試してみましょう。新しいトピックを選び。先ほどのプロンプト貼り付けて。送信します。

はい、3つのサイトを紹介してくれました。

鶏卵卸売価格の推移。これは農林水産省のサイト。開いてみるとこのようにグラフで鶏卵の価格の変化が表されています。

グラフで見る JA 全農卵株式会社。同様にこのようなサイトが紹介されました。

下に詳細情報を提供してくれるサイトが3つ紹介されていますので、ここでさらに詳しい情報を調べたり、下のプロンプトを選んでさらに調査を進めることができます。

●活動6 知ったかぶりするときがある。

先ほどの情報検索に関係して注意しておきたいことをお話しします。AI チャットは学習していない情報について問われると知ったかぶりをする時があります。この誤った情報のことを幻覚、ハルシネーション Hallucination と呼んでいます。

《ChatGPT》

ちょっと試してみましょう。「新島八重について知っていますか？」このプロンプトを ChatGPT に読ませてみましょう。「+New chat」を選んで（プロンプトを貼り付ける）。

このような応答が返ってきました。日本語としては正しいのですが、おかしいことをいっばい言ってます。一つ目の段落では、新島八重の読み仮名が「しんじまやえ」になってます。

2つ目の段落では、新島八重は1858年に長崎で生まれたことになっています。

10年後に会津へ行ってスペンサー銃で戦っていたことになります。また、幼少期から学問を志し、キリスト教の影響を受けて、教育に興味を持ったということも聞いたことがありません。3つ目の段落にもおかしいことがいろいろ書かれています。

4つ目の段落では、新島襄が東京女子師範学校の同期生であったということになっています。同じプロンプトを投げかけても、また違った応答を返してきたりします。皆さんもどのような応答してくるか確かめてみてください。

●活動7 AI チャットと対話しながら、問題を掘り下げていく。

AI と対話しながら問題を掘り下げていくということについて紹介しておきます。例えば、ここに載せたような質問を AI チャットに順にしてみてください。結構しっかりした応答をしてくれ、こちらの考えの足りない部分を指摘してくれたり、こちらからの問いかけにも的確に答えてくれます。

話を誰かに聞いてもらって考えを整理することを「壁打ち」と言いますが、AI チャットはこの壁打ちを手伝ってくれます。この機能は私たち教員にも役立ちますが、教育利用ということで考えてみますと、学生にテーマを与えてレポートを書かせ、そこで抜けている視点を

AI チャットに指摘させる。そして、それを踏まえてレポートを書き直させるという、壁打ちのステップを入れた課題なども有意義かもしれません。

■3. 生成 AI と教育 (37:30～50:40)

生成AIにお願いをするときに心得ておきたいこと

- AIに良い働きをして欲しいなら、試行錯誤による指示文の改善が必要
- 指示は、具体的で、直接的で、単純で、簡潔なものが良い
- 命令は具体的かつ詳細に説明する。しかし、長すぎも良くない
- 複雑な指示は、単純なものに分割してから、分けてお願いする
- してはいけないことを伝える際は、代わりにどうするかも伝える。
禁止条件によってAIがどのように困るか予測して、代替指示を与える
- 指示文の各要素は###や""などで明確に区切る

以上の出典：ヒメハギ「対AI用コミュニケーション能力-メモ」 https://note.com/hagi_hime/n/ne14b8edf8490

※ Prompt Engineering Guideのキモをわかりやすく簡潔に書いている

【追加】

- AIに学習させたくない情報（人名や組織名など）が含まれる場合は、仮名（Aさん、B大学、〇×商店）に変えておく

いかがだったでしょうか？

結構面白いし、意外に使えるなど感じてもらえたのではないのでしょうか？ 私たち教員はこれから生成 AI とどのような姿勢で付き合っていけば良いのでしょうか？ この問題について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

●生成 AI にお願いをするときに心得ておきたいこと

ヒメハギさんという方が書かれていた生成 AI にお願いをする時の心得を紹介しておきます。

- ・AI に良い働きをしてほしいなら、試行錯誤による指示文の改善が必要。
- ・指示は具体的で直接的で単純で簡潔なものが良い。
- ・命令は具体的かつ詳細に説明する。しかし長すぎも良くない。
- ・複雑な指示は単純なものに分割してから分けてお願いするとよい。
- ・してはいけないことを伝える際は代わりにどうするかも伝える。
- ・禁止条件によって AI がどのように困るか予測して代替指示を与える。
- ・指示文の各要素は###や""などで明確に分ける。

ヒメハギさんの心得は以上 6 つですが、私の方でもう一つ加えておきたいと思います。

・AI に学習させたくない情報、例えば人名や組織名などが含まれる場合は、仮名、例えば A さんとか、B 大学とか ○× 商店に変えておく

ということです。GoogleBard を起動した時に、最初に「品質向上のため、人間のレビュワーが Bard との会話を処理する場合があります。センシティブな情報を入力しないでください」という断り書きが表示されたことに気づかれた方がいらっしゃると思います。DeepL という AI 翻訳サイトや Google フォト、Amazon の Alexa などユーザーのデータを AI に学習させています。

やっていないと公表している生成 AI もいつ入力情報を学習データに使い始めるか分かりません。最後に追加したこの心得は、そういうプライバシー漏洩やセキュリティ問題への対処です。

教育におけるAIの役割	説明	実施例
言い換えエンジン	アイデアを別の言い回しで表現させる	Chat GPTのRegenerate responseボタンを使えば、同じプロンプトで違う応答をいくつも生成できる。学生たちにこの機能を使わせて、多様な言い回しを吟味させる。
ソクラテ斯的対話の相手	対話の相手にして議論を深める	意見が分かれるトピックを取り上げてディスカッションさせる。ChatGPT に特定の立場を擁護するように依頼して対話させれば、学生の批判的思考スキルを醸成できる。
グループ作業のコーチ	グループで行う研究や問題解決の支援	学生たちがグループで作業をしているときに、ChatGPTで作業内容をチェックさせ、それを参考にして課題を完成させる。
(壇上の賢者でなくて) 学生に寄り添う案内人	学生たちの学習を導くガイド役	教師がChatGPTを活用して授業コンテンツ(例えばディスカッションの質問など)や上手な学び方のアドバイスを生成する。
個別指導のチューター	個別指導を行って即時フィードバックも返すチューター	教師は ChatGPTを使用して、学生の関心を引き付け、教材への興味を維持するインタラクティブなレッスンを作成できる。
授業の協同デザイナー	授業設計のプロセス全体を支援	カリキュラムのアイデア(例: シラバス、ルーブリック)の設計・更新や、特定の目標に焦点を絞った教材(例: ディスカッションのテーマ)の改善にもChatGPTは役立つ。
エクスポラトリアム (体験型学習環境)	データで遊んだり、探索したり、解釈するときに役立つツールを提供	学生たちにクエリの書き方の基礎を手ほどきする。そして、ChatGPTを使ってデータを分析したり探索する活動に取り組ませる。外国語の学習環境にもなる。
学習仲間	共に学ぶ仲間として熟考を助ける	ChatGPTをグループ学習のメンバーに加え、アイデア生成やブレインストーミングに協力させる。学習以外の課題(例: 就職面接)の準備でも同じように使える。
動機づけ役	学習ゲームや挑戦課題を提供	ChatGPTに現在の知識レベルを簡単に説明する(例: クイズ、練習問題など)。そして、面白くてやりがいがあるゲームやクイズ、次の学習課題を生成してもらう。
動的な評価者	個々の習熟度評価情報を教師に提供	学生たちにチュートリアル形式でChatGPTと対話させ、その後で習熟度評価のサマリーをまとめてもらう。その内容は教師と共有したり自己評価に活用できる。

UNESCO: ChatGPT and Artificial Intelligence in higher education: Quick start guide
https://www.iesalc.unesco.org/wp-content/uploads/2023/04/ChatGPT-and-Artificial-Intelligence-in-higher-education-Quick-Start-guide_EN_FINAL.pdf
 P.9の表を翻訳し、実施例の一部を余田が加筆・修正した。

● 高等教育における生成 AI の活用法

AI チャットの高等教育での活用方法ですが、ユネスコのガイドではこのような役割が期待できると紹介しています。

AI の役割と説明だけを読んでいます。

言い換えエンジン。アイデアを別の言い回しで表現させる。

ソクラテ斯的対話の相手。対話の相手にして議論を深める。

グループ作業のコーチ。グループで行う研究や問題解決の支援。

壇上の賢者でなく、学生に寄り添う案内人。学生たちの学習を導くガイド役。

個別指導のチューター。個別指導を行って、即時フィードバックを返すチューター。

授業の共同デザイナー。授業設計のプロセス全体を支援。

エクスプロラトリアム。体験型学習環境。データで遊んだり探索したり、解釈するときに役立つツールを提供。

学習仲間。共に学ぶ仲間として熟考を助ける。

動機づけ役。学習ゲームや挑戦課題を提供。

動的な評価者。個々の習熟度評価情報を教師に提供などです。

生成 AI の活用場面はこれ以外にもまだいろいろ考えられると思います。

この表は私が日本語訳したのですが、内容について補足しておきたいことがあります。この表についていた注釈によると、この表は AI の役割と説明、それと実施例をそれぞれ別の文献から引用して合体させたものだそうです。

しかし、両者はどうもうまくかみ合っていないような印象を受けております。そこで、私の方で実施例の一部を加筆修正して両者が噛み合うようにしました。この表をもし他で利用される場合は、実施例を転載しないようにしてください。

AIとどうつきあっていけばよいか

ITmedia News > 社会 > AI > “AI俳句”の美しさは人の作品と同等 AIと人間の共同作品は最も美しい 京大研究

© 2022年11月05日 10時30分公開 | 岡田有花, ITmedia |

AIが単独で作った俳句は人間の作品と同じくらい美しく、AIと人間が共同作業した句はさらに美しい——こんな研究結果をこのほど、京都大学の研究グループが発表した。「AIとともに創作することで従来よりもクリエイティブな作品を生み出すことのできる可能性を示唆してる」とコメントしている。

AIが作り、人間が選んだ俳句 (HTL)	美しさの評価
 夜の鐘 一つ鳴きけり 秋の風	☒
プロの俳人が作った俳句	☐
 淋しさに 飯を喰ふなり 秋の風	☐
AIが作った俳句 (HOTL)	☐
 目に高さ 身を考へて 秋の風	☐

カスパロフ「AIの戦術レベルでの正確無比な計算能力と、人間の戦略レベルでの指揮が合致したら、世界最強だ」

●AI とどうつきあっていけばよいか

昨年 11 月にこのようなニュースが配信されました。ちょっと見出しを読んでみましょう。AI 俳句の美しさは、人の作品と同等、AI と人間の共同作品は最も美しい。同じような結果は 20 年前に行われたチェスの実験でも得られています。

チェスの世界王者として有名だったガスパロフという人は 1997 年にディープブルーという

IBM のスーパーコンピューターと戦って負けてしまいました。この右の写真はその時の様子です。彼はその数年後に人間も AI も参加できるフリースタイルのチェス大会を開催しました。

世界チャンピオンを含む人間だけのチーム。AI だけのチーム。人間と AI を組み合わせたチームが参戦して競ったのですが、結果は市販 AI ソフトを使ったアメリカのアマチュア 2 人が優勝しました。ガスパロフはその試合結果を分析して「AI の戦術レベルの正確無比な計算能力と人間の戦略レベルでの指揮が合致したら世界最強だ」と結論づけています。これからの社会では、様々な職業で人が AI を活用して自身の創造性や能力を引き出していくことが重要になります。

AI は人間の競争相手ではなく、上手に活用すべきものなんです。

北島康介「泳ぐのは僕だ！」

2008年6月 高速水着が注目された
ジャパンオープンでTシャツに文字をプリント
<https://www.sponichi.co.jp/olympic/>



これは北京オリンピックがあった十数年前頃の写真です。あの頃、高速で泳げる水着が出てきて、水泳選手の記録がどんどん更新されたことがありました。

その時に北島康介選手が「泳ぐのは僕だ」と書いた T シャツを着て登場して会場を沸かせたことがありました。私は AI は高速水着のようなものだと考えています。AI を使うと時間をかけずに高度なことができるようになります。

でも、主体は人間つまり、自分であって自分が本来持っている能力、それを拡張するために

AI を役立てるのです。昨年 12 月に我喜屋先生が講演の中で「AI でなく IA」というお話をされました。

IA とはインテリジェンス・オーグメンテーションあるいはインテリジェンス・アンプリファイアの略です。「知能の拡張」という意味です。この考え方は最近出てきたものではなく、1960 年代の人工知能の創世記の頃から一部の研究者によって強調されてきたことです。このような考え方を大切にしたいものです。

学習における生成AIの不適切利用

■盗用

AI作成コンテンツを適切な引用なしに使用したり、自分のものとして提示する。

※ Google検索で見つけた他人の著作物をそのまま転載してしまうのと同じ。

■代筆

自分の意見や理解なしに、生成AIを使って課題、レポート、論文などを作成する。

※ 家族や他人に書いてもらっておきながら、自分で書いたことにしてしまうのと同じ。

■能力詐称

生成AIを使って自分の考えや理解を超え内容や経験していない内容のレポートを作成し、自分のものとして発表する。

※ 他人が書いた文章をコピーして、それにちょっとだけ手を加えて自分が書いたように見せてしまう行為と同じ。

■文献チェックの手抜き

生成AIに教えてもらった情報や情報源を内容を確認せずにそのまま載せる。

※ 論文の孫引きと同じ。

— 学問的誠実性(アカデミック・インテグリティ) 生成AIを使わない場合でも指導は必要

【参考】 Miriam Scott 2023 Ethical vs Unethical AI

<https://scottybreaksitdown.com/wp-content/uploads/2023/06/Ethical-vs-Unethical-AI-Scotty-1.png> (参照日 2023年8月9日)

●学習における生成 AI の不適切利用

ここで学生たちが生成 AI を使い始めた時に懸念される事柄について考えておきたいと思います。4 通りの問題が考えられると思います。

まず一つは盗用。AI が作成したコンテンツを適切な引用なしに自分のものとして提示することです。これは Google 検索で見つけた他人の著作物をそのまま自分のレポートに転載してしまうことと同じです。

2 つ目は代筆。自分の意見や理解なしに生成 AI を使って課題やレポート論文などを作成してしまうことです。これは家族や他人に書いてもらったものを自分が書いたものとして提出することと本質的に同じです。

3 つ目は能力詐称。自分の考えや能力を超えた内容、経験していない内容のレポートを作成し、それを自分のものとして発表することです。これは他人が書いた文章をコピーし、ちょっとだけ手を加えて自分が書いたものとして見せてしまうことと同じです。

4 つ目は文献チェックの手抜き。生成 AI に教えてもらった情報や情報源を内容を確認せず

にそのまま載せることです。これは論文の孫引きと本質的に同じです。

これらはAIの登場で起こり始めた問題ではありません。※印を付けた注釈でもわかるように元からあった問題で、AIの登場によって顕在化したと捉えるべきです。

これらは学問的誠実性の問題であって、最初からそういう行為をさせないように指導することが重要です。また、万が一見かけた場合は、それがアンフェアな行為であることを丁寧に説明して理解させることも大切だと思います。

AI時代に求められる教育

■AIでなくIA（知能増幅）という心構えの教育

- AIはCopilot（副機長）。Pilotである私たちの知識、思考、意思決定が重要で、責任も負わなければならない。
- 人の「能力」をテクノロジー込みで捉え、テクノロジーを活用した問題解決能力を育てて行くことが重要に。

■表現力を高める教育

- テキスト、図・表・グラフ、…などで読者を意識した情報を伝える力が重要に。
- 欲しい情報を生成させるために、AIに的確に命令を伝える力も重要に。

■デモンストレーションや口頭試問に備える教育

- 能力詐称対策として、対面による能力評価が増えるだろう。それに備える教育が重要に。

■よい問いを立てる力の教育

- 問いは探求の出発点。でも、現在の生成AIは回答を返してくれるが問いかけてはくれない。

■情報を精査する力の教育

- 誤った情報に惑わされないために。また、責任ある情報発信のために。

■感動と体験の教育

●AI時代に求められる教育

最後にAI時代に求められる教育について、私なりに考えたことを紹介しておきたいと思います。AIについての知識や操作方法を教える教育も大切ですが、次に述べるような教育もこれから必要になってくると思います。

一つ目はAIでなくIA。知能増幅という心構えの教育です。これは先ほど話したことです。AIはコパイロット（副機長）はMicrosoftが使っている言葉です。飛行機の操縦に喩えて、私たち人間がパイロット、AIはそれを補佐する副機長だという意味です。

2つ目は表現力を高める教育がこれまで以上に重要になるということです。情報は相手に伝わって共有されることで初めて価値が生まれます。ですので、情報を生成するだけでなく、それをより良い表現で表すことも大切です。読者を想定する。文体。見出し。言葉選び。どのような図表、グラフを用意するかなどで伝わりやすさがずいぶん変わります。

3つ目はデモンストレーションや口頭試問に備える教育です。能力詐称対策として、対面による能力評価を重視する時代が来ると思います。限られた時間で緊張に耐えて能力を発揮

できるようにするために、授業の中で場数を踏ませることが大切だと思います。

4つ目は良い問いを立てる力の教育です。今のAIは応答はしますが、問うことはしません。問いは探求の出発点です。問いの良し悪しによってAI活用の質が変わってきます。

5つ目は情報を精査する能力です。誤った情報に迷わされない。責任ある情報を発信する。そういった力がこれまで以上に求められるようになります。

最後は感動と体験の教育です。AIにできないことは感動したり、体験することだと考えます。こういう時代だからこそ、瑞々しい感性を育てる教育がこれまで以上に重要になるのではないのでしょうか？

**生成AIはインターネット、
スマホの後にあらわれた
ゲームチェンジャー**

**今はあらゆる可能性を
模索する段階**



●おわりに

皆さん、いかがだったでしょうか？

インターネットやスマホがそうであったように、生成AIも私たちの生活や社会のあり方を大きく変えるだろうと思います。教育におけるAI活用のお話をしますと、そのメリットやデメリットは何かと聞かれることがあります。

でも、今はそれを話せる段階ではありません。AIの活用は始まったばかりで、誰もが試行錯誤している段階だからです。先生が使わなくても、学生たちは課題などでどんどん使うようになるでしょう。

授業の課題もそのことを前提として考える必要があるかもしれません。評価もこれまでのやり方を少し変える必要が出てくるかもしれません。いろいろ大変でしょうが、その一方で面白い使い方や取り組みが次々現れてくるだろうと思います。そういった期待や願いを込

めて、ワクワクしながら生成 AI に接していただければと思います。
ということで、この動画を終わらせていただきます。最後までご視聴ありがとうございました。

◆2023 年度 大学院 FD 講習会◆

日時：2023 年 7 月 12 日（水）17：30～18：30

開催：Zoom ミーティングにてオンライン開催

司会：椎名亮輔 文学研究科日本語日本文化専攻主任

- 1 講演 「女性社会人大学院生の学びを支える体制づくり」
北海道大学高等教育推進機構 石川 奈保子 先生
- 2 質疑応答
- 3 閉会挨拶 真部 真里子 教務部長
小崎 眞 学長

「女性社会人大学院生の学びを支える体制づくり」

北海道大学 高等教育推進機構 石川 奈保子

はじめに

2023年度 同志社女子大学大学院 第3回FD講習会

女性社会人大学院生の 学びを支える体制づくり

北海道大学高等教育推進機構
石川奈保子

先ほどご紹介いただきました、北海道大学高等教育推進機構の石川奈保子と申します。
本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

今日のテーマですが、「女性社会人大学院生の学びを支える体制づくり」ということでお話をさせていただきます。

概要

1. 女性の社会人学生の学習環境
2. 女性社会人学生のニーズ
3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント
4. 質問タイム

2

こちらが概要になります。まず、女性の社会人学生の学習環境、学習をする目的などです。それから2番目が女性社会人学生のニーズ。3番目がオンラインを取り入れた授業運営へのヒント。そして、最後に質問タイムとさせていただければと思います。

本FD講習会の目標

- ▶ 大学院として女性社会人学生を積極的に受け入れていくことになったときに、学生の学習・研究環境を整えるために、自分には何ができるかの案を1つ以上挙げることができる
 - ▶ 社会人学生…学部からストレートの入学者ではなく、仕事や家事育児などの社会的役割を経験してから入学してきた学生
- ▶ こちらからも質問させていただきます。ぜひご参加ください。
 - ▶ リアクションボタンでの「リアクションタイム」
 - ▶ チャット機能での「チャットでドン！」

3

本FD講習会の目標、インストラクショナルデザインの言いますと「教育ゴール」は、こちらです。

大学院として女性社会人学生を積極的に受け入れていくことになったときに、学生の学習・研究環境を整えるために、自分には何ができるかという案を一つ以上あげることができるということをゴールにしていきたいと思います。

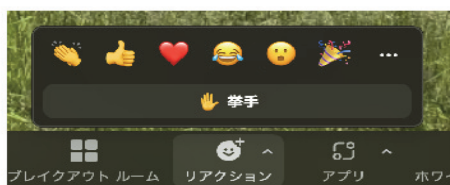
用語について、社会人学生という言葉は、学部からストレートの入学者ではなくて、仕

事、家事・育児などの社会的役割を経験してから入学してきた学生ということで使わせていただきたいと思います。

私からも皆様に質問をさせていただきます。ぜひご参加ください。リアクションボタンでの「リアクションタイム」、それからチャット機能での「チャットでドン！」をさせていただきますので、どうぞ、ご参加をお願いいたします。

Zoomの操作練習(1)

- ▶ リアクションボタン
 - ▶ 今の気分が一番マッチするリアクションボタンを押してください。

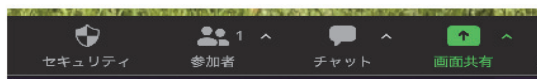


4

まず、Zoomの操作練習をしたいと思います。皆様、Zoomには慣れていらっしゃるでしょうか。Zoom画面の下か上かにリアクションボタンはありますか。こちらで、今の気分が一番マッチするリアクションボタンを押してください。多分、挙手や拍手などのマークが出てくると思います。「…」を押すといろいろ出てくるのではないかと思います。きらきらハートが出ていますね。笑顔とか、真っ青になっていらっしゃる方もいらっしゃいますね。挙手を押した方は、もう1度挙手のところを押すと、手が下がると思います。

Zoomの操作練習(2)

- ▶ チャット機能
 - ▶ ご自身のゼミに、社会人学生が在籍しているかを教えてください。
 - ▶ 在籍している先生→「いる」
 - ▶ 在籍していたことがある先生→「いた」
 - ▶ 在籍していない、在籍していたことがない先生
→「いない」



5

それからチャット機能ですが、チャットというところを押すと、ポップアップでチャットの画面が出るか、あるいは、右側にチャットの列が出るのではないかと思います。ミーティングチャットに、ご自身のゼミに社会人学生が在籍しているかを教えてください。在籍しているという先生は「いる」、していたことがある先生は「いた」、在籍していない、あるいは在籍していたことがない先生は「いない」と入れてください。「いない」という方のほうが多いですかね。

では、Zoomの操作を練習できたところで、改めまして自己紹介させていただきます。

自己紹介

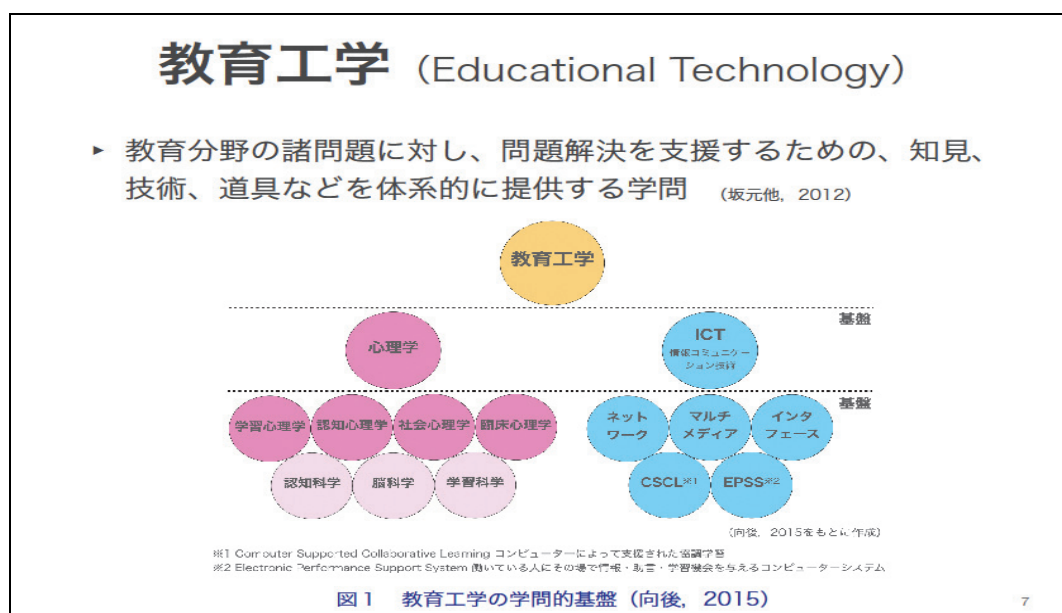
- ▶ 石川 奈保子（いしかわなおこ）
- ▶ 専門：教育工学、インストラクショナルデザイン
- ▶ 経歴：
 - ▶ 2001年から学習塾講師
 - ▶ 2007年 早稲田大学人間科学部に入学
 - ▶ 学習塾講師、eラーニング教材開発、早稲田大学eスクール教育コーチ、子育て
 - ▶ 2019年 早稲田大学大学院 人間科学研究科博士課程修了
博士（人間科学）
 - ▶ 2019年より 早稲田大学人間科学学術院 講師
 - ▶ 2022年より 北海道大学高等教育推進機構 助教



6

石川奈保子と申します。専門は教育工学、インストラクショナルデザインです。経歴は、先ほどご紹介いただいた通りなのですが、早稲田大学の人間科学部には社会人として入学をしました。その前に一つ大学を出て、そのあと学習塾の講師をしておりまして、大学でこれを学びたいと思い人間科学部に入りました。その後、学びながらアルバイトで塾講師、もう1回就職してeラーニングの教材開発、あとは人間科学部にある通信教育課程のeスクールの教育コーチという学習の支援をする立場の人がいるのですけれども、それをおこない、子育てをしつつ学部と修士と博士を終えました。2019年、まだ学位を取って4年ぐらい経ったところです。人間科学部で講師、そして今は北海道大学におります。ですので、まだ大学教員になってからは5年目というところです。

そして、今出てきた言葉などについて背景をお伝えいたします。



まず、教育工学ですが、こちらは教育分野の諸問題に対し問題解決を支援するための知見・技術・道具などを体系的に提供する学問です。学問的基盤としましては心理学、そしてICT、情報コミュニケーション技術が基盤となっており、教育をどうするともっと良くなるか、もっと効率良く、もっと分かりやすくといったことを追究していくような学問になります。

インストラクショナルデザイン

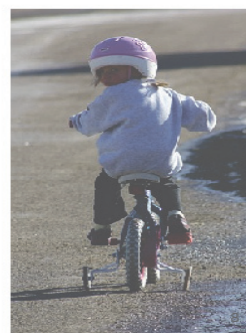
(Instructional Design)

- ・何かをうまく教えるための技術と科学

(向後, 2015)

- ・教育を中心とした学びの
「効果・効率・魅力」の向上を
目指した手法の総称

(鈴木他, 2016)



それからインストラクショナルデザインなのですが、これは教育工学の中心的な学問領域になります。簡単にいいますと、何かをうまく教えるための技術と科学です。そして、教育を中心とした学びの「効果・効率・魅力」の向上を目指した手法の総称ということで、結構何でも、これは使えると思ったものはいろいろ取り入れてやってみて、その効果を検証してみるというようなことをやります。

早稲田大学 人間科学部/人間科学研究科

博士後期課程

- ・社会人率は多め
- ・研究指導のみ
- ・指導形態は指導教員次第

修士課程

- ・社会人率は多め
- ・基本通学
- ・インターネット授業も多め

学部 通学制

- ・大部分が若年の学生
- ・インターネット授業もある

学部 通信制

(通称 eスクール)

- ・大部分が社会人
- ・スクーリング科目以外はインターネット授業

学習管理システム (Waseda Moodle) を使用

9

それから早稲田大学の人間科学部ですが、人間科学部の学部には通学制と通信制とが併設されております。通信制は通称「eスクール」と呼ばれております。通学制のほうは大部分が若年の学生さんなのですが、通信制のほうは大部分が社会人、最近若い方が増えておりますが、社会人がとても多いです。そして、スクーリング科目以外はインターネットで単位が取れて卒業までいけるということです。卒業研究は必須です。また、最後に口頭

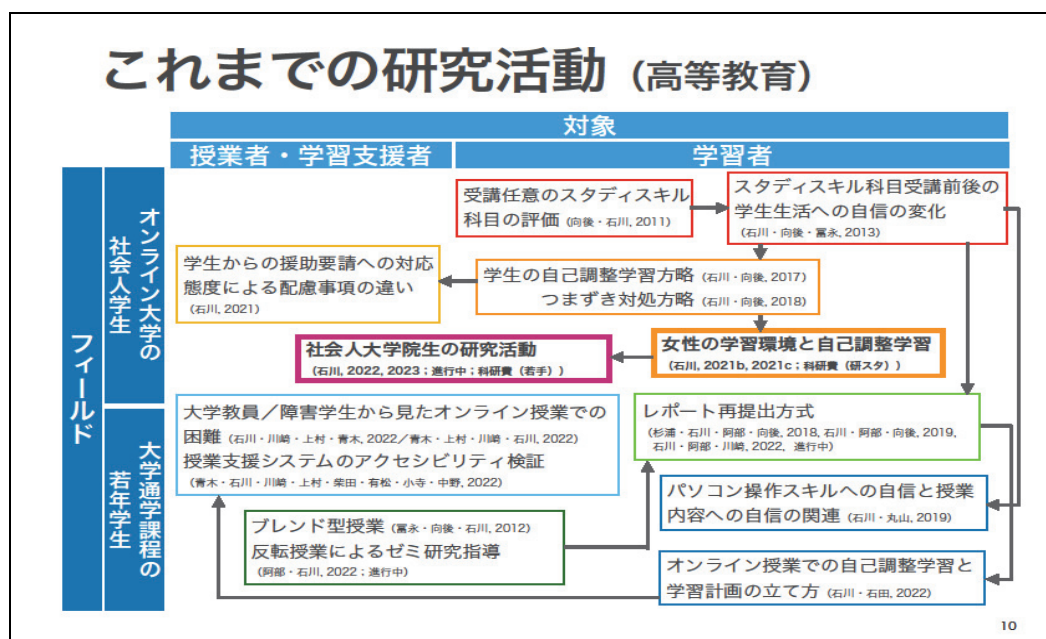
試問が対面で必須です。それから通学制のほうも、基本は対面なのですが、インターネットで受けられる授業もかなり前から充実をしております。

そして、インターネットを使った授業は学習管理システム、今は Waseda Moodle というものを使っています。ビデオのやりとり、課題の提出、クイズなど、いろいろな活動ができるものになっています。

私は、「通いたい」と思ったので通学制のほうにおりました。ですので、e スクールのことは、通学制の側から客観的に観察をしていたという感じになります。

そして修士課程なのですが、通学制と通信制のどちらからも上がってきますし外部からもきますので、おそらく、ほかのところに比べると社会人率はかなり多いと思います。基本は通学なのですが、インターネットの授業も多めです。ですので、社会人の方はインターネットの授業を中心に取られています。通学しなければいけない科目も取って修士論文を書いてという形になります。

博士後期課程のほうも修士課程から上がっているのも社会人率が結構高いと思います。そして授業は必修ではなくて、研究指導のみ。取りたければ授業を取ってもいいという形になっています。この研究指導は、一人の先生のところについて研究を進めていくのですが、指導形態は指導教員次第です。対面でやるという先生もいらっしゃれば、オンライン、Zoom などという感じで、色々あるということです。



このような背景とともに、あとは、今日ご紹介するインタビューの研究のデータを元に話をさせていただこうと思っています。これまでの研究活動の中の、オンライン、インターネットでの大学の社会人学生を対象とした研究や、それから大学の通学課程の若い学生さんを対象とした研究など、あとは、学習者と授業者・学習支援者の研究もしております、その中の「女性の学習環境と自己調整学習」「社会人大学院生の研究活動」を中心に

お話をさせていただきたいと思います。

まずは女性の学習環境と自己調整学習。こちらはeスクールの女性の社会人学生の方々16名にインタビューをとらせていただきました。それから社会人大学院生の研究活動。こちらは、様々な大学院の博士課程の学生の方、社会人の博士過程の学生の方、あるいはそれを終えて5年以内の学生の方 24 人にインタビューをさせていただきました。これらを元にお話をさせていただければと思います。

1. 女性の社会人学生の学習環境

1. 女性の社会人学生の学習環境

2. 女性社会人学生のニーズ

3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント

4. 質問タイム

11

本題です。まず、女性の社会人学生の学習環境について、インタビューを元にお話をさせていただきます。

学ぶ目的

黄色：学部生、水色：博士課程学生
(石川, 2021b, 石川, 2023)

仕事・生活上の問題解決

- ・今の時代に合った知識が必要
- ・幅広い知識が必要
- ・体系的に学びたい
- ・自分自身の整理がしたい
- ・問題解決のための知識が欲しい

人生のステップアップ

- ・学位を取得したい
- ・より良い仕事に就きたい
- ・専門性を身につけたい
- ・なりたい自分になりたい

何かを学びたい

- ・いつでも学んでいたい
- ・教養を身につけたい
- ・学ぶ明確な目的はない

人生の
やり残し感

高学歴
への憧れ

職務のため

- ・現場の問題解決
- ・職務への必要性

・大学教員であるために必要

自分の人生のため

- ・知的好奇心
- ・人生への満足感
- ・人生を変えたい

12

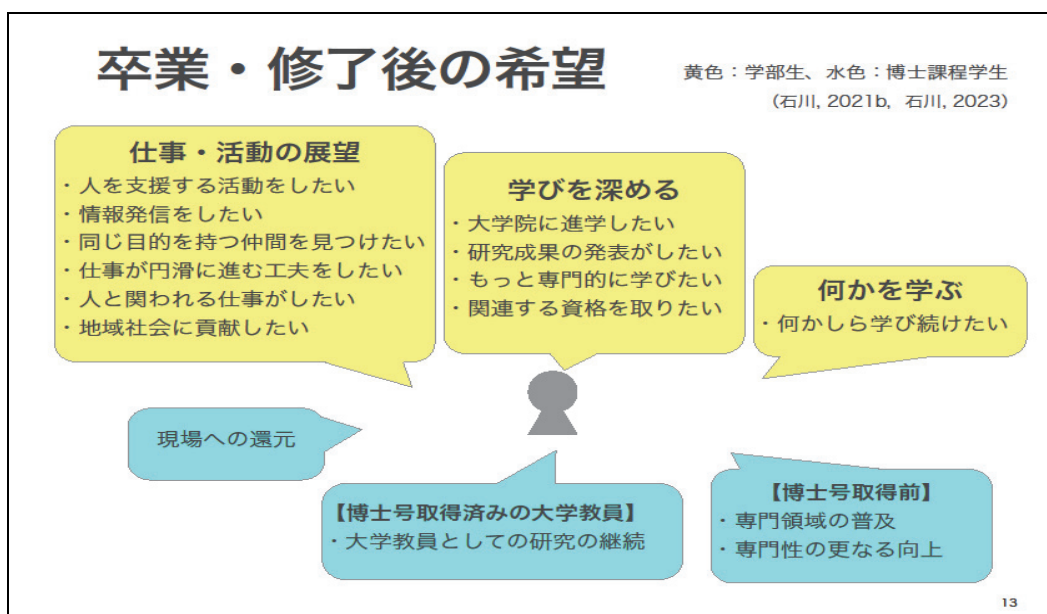
まず、学ぶ目的なのですが、上の黄色が学部生のインタビューから得た話で、下の水色は博士課程の学生の方、元学生の方も含めて伺ったものです。学ぶ目的は何ですかということで三つに分かれます。

仕事・生活上の問題解決、今の時代に合った知識が必要、幅広い知識、体系的に学びたい、自分のやっていることを整理したいなど、何が問題であってその解決のための知識が欲しいというようなことを目的にして入学していらっしゃる方がいらっしゃいます。

それから、学部に入ってからの方は、人生のステップアップということで学位を取得したい、より良い仕事に就きたい、専門性を身につけたい、なりたい自分になりたいといった気持ち。それから、何かを学びたい。とりあえず何でもいからいつでも学んでいたい、教養を身につけたい、学ぶ明確な目的はないけれども何かを学びたいと考えて入学してくる方がいらっしゃるという状況です。

博士課程の方も大体リンクしておりまして、職務のため、それから自分の人生のため、知的好奇心、人生への満足感、人生を変えたいといったことなどがリンクしているでしょうか。

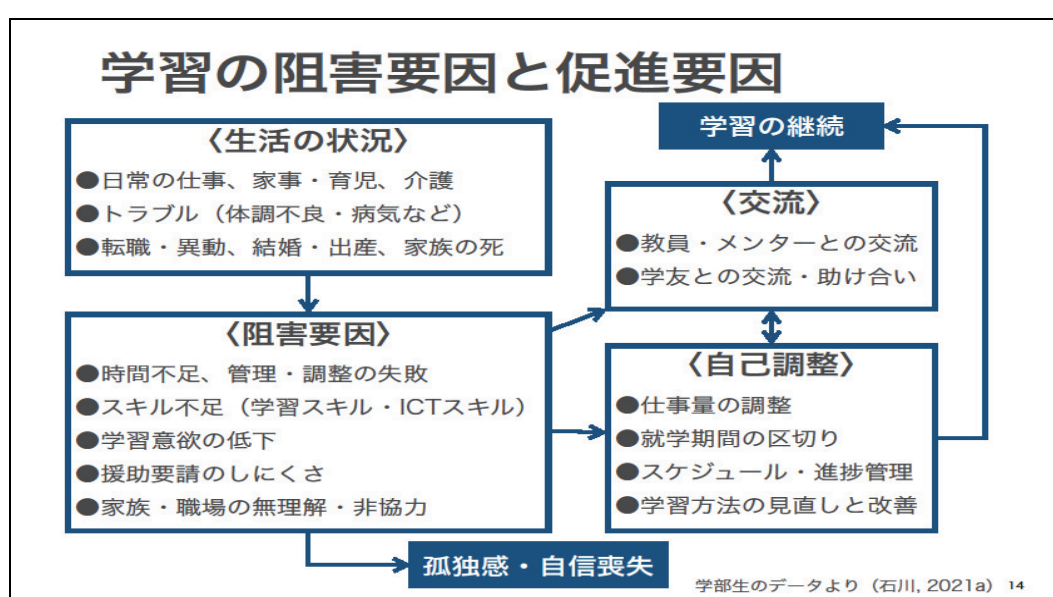
それから大学教員でいるために必要というのは、もう既に大学教員になられている方たちがそれを継続するために博士号が必要だということです。その奥には人生のやり残し感がある、高学歴への憧れなどが心の奥底に潜んでいる方がとても多いということです。このあたりは、後でまたお話しするかと思います。



そして、今のものに繋がって卒業・修了後の希望なのですが、仕事の問題解決を強く求めている方は、やはり仕事や今後の活動について、このようなことがしたいということを述べていらっしゃいました。人を支援する活動をしたい、医療、教育などが多かったと思います。それから情報発信したい、同じ目的を持つ仲間を見つけたい、仕事が円滑に進む工夫をしたい、人と関われる仕事がしたい、地域社会に貢献したいといったことで

す。社会への貢献、仕事への貢献を考えていらっしゃる。それから学びを深めたいというのもありました。大学院に進学したい、研究成果の発表がしたい、もっと専門的に学びたい、関連する資格を取りたいといったこと。それから、とにかく学びたいという方は、卒業したあとも何かしら学び続けたいといったことです。

そして、博士課程の学生、元学生の方は、やはり現場への還元。それから博士号取得済みの大学教員をされている方は、やはり大学教員としての研究の継続をしたいと思っていられっしゃる。そして、教員かどうかはともかく、博士号取得前の方の先の展望を聞くと、専門領域の普及や専門性の更なる向上といった、こちらに比べるとやや抽象的な言葉が返ってきました。

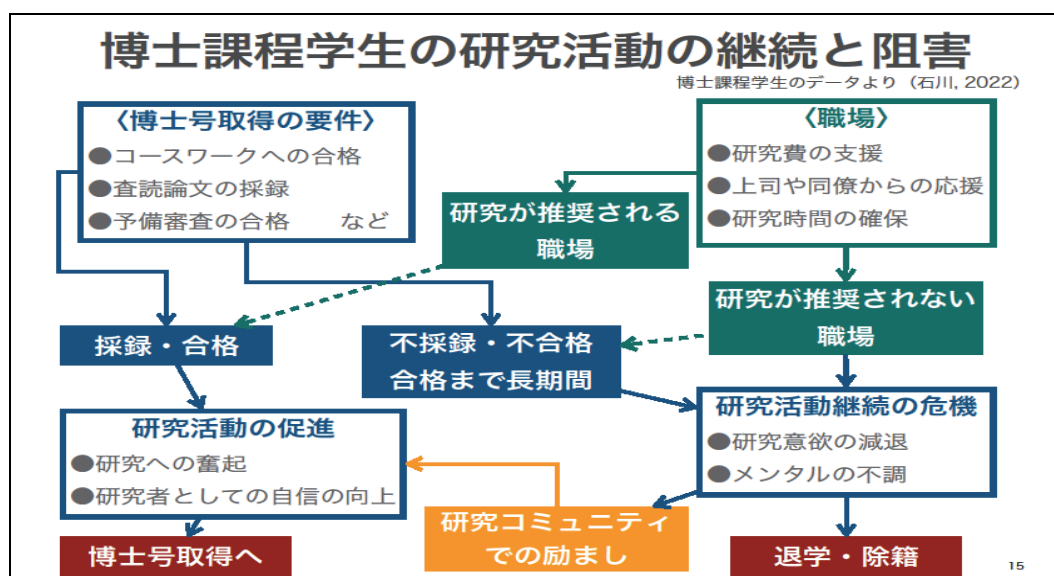


そして次なのですけれども、やりたいことがあって入ってくるわけなのですけれども、学習の阻害要因と促進要因についてです。こちらは学部生のデータを中心に図を作ってみました。社会人ですので様々な日常のお仕事、家事・育児、それから介護など社会的な役割をお持ちです。もうそれだけでも忙しいのにトラブル発生、それからライフイベントですね、転職・異動、それから結婚・出産、家族の死など、このようなものが次から次へとやってまいります。そうすると、やはり時間不足であったり管理・調整の失敗。それからスキル不足です。しばらく学ぶことから離れていた方は学習スキル、あとはパソコン、ICTのスキル、パソコンなど触ったことないのといった状況で入学される方もいらっしゃいます。それから、いろいろなネガティブなことがあると学習意欲も低下していきますし、あとはオンラインとなりますと援助要請のしにくさ、些細な質問を隣の人に尋ねることができないので、それで諦めてしまって分からないことが積み上がってしまうという方もいらっしゃいます。それから、ご家庭をお持ちの方が多いですので家庭・家族・職場の無理解、非協力によってなかなか時間が捻出できないといったことなども阻害要因としてあげられます。そうすると孤独感、自信を喪失してしまうといったこと。それによって卒

業までいかない、修了までいかないといったこともございます。

そして、阻害要因があっても「やるぞ」という強い気持ちを持っている方というのは自己調整をしていかれるのです。仕事量を調整する。仕事をパートにしてしまう、仕事をいったん辞めてしまう、そのような結構思い切ったことをされる方もいらっしゃいます。それは修学期間が3年だけだから、4年だけだからといって割り切って仕事量を減らすといったことをされる方もいらっしゃいます。それからスケジュール・進捗管理をもう少し見直そうと立て直してくる。学習方法の見直しと改善でもっと効率がいい方法はないかなという調整をする形です。それと並行してメンターです。教員と学生との間をとりもつような、学生を支援するようなポジションの人をメンターと呼んでおりますけれども、このような支援してくれる、指導してくれる人との交流、あとは同期・先輩・後輩、学友との交流であったり、助け合い、情報共有などで「こうしているよ」「ああしているよ」など、いろいろな情報が入ることで立て直して学習の継続に至っているという形です。

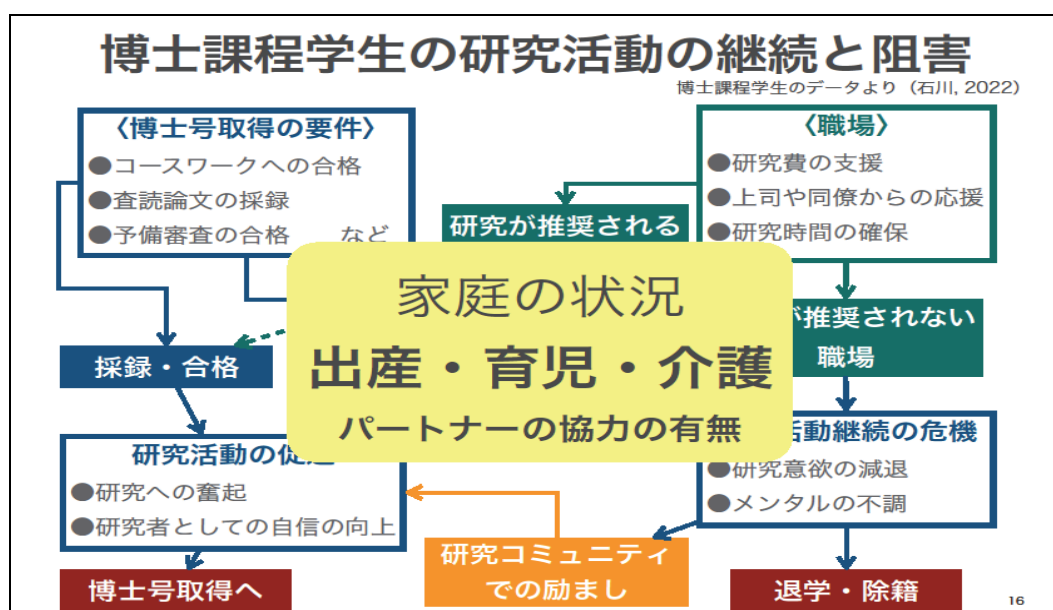
なお、eスクールは、通信制でありながら卒業率が6割程度ということで、ほかの通信教育課程が2割、低いところは卒業率が数パーセントといったところもあり、比較的卒業率が高めになっております。この交流が結構肝になっているというのが私たち、私のほかにもこのような社会人の学びについて研究している仲間がいるのですけれども、交流が大事だという研究結果が出ております。



それから、今度は博士課程の学生の研究活動の継続と阻害なのですけれども、まず、それぞれの大学院、研究科によって博士号取得の要件がございます。コースワークの合格であったり、査読論文何本以上採録されること、それから予備審査の合格など様々です。これが採録されたり合格したりすると研究活動の促進、自信も沸いてきますし、やる気になって頑張って博士号を取得するというほうにいくのですけれども、論文不採録になったり、合格しないといけないものが不合格になったり、あるいはなかなか合格できない、長期間にわたってしまうといったことになるとう継続の危機ということで、意欲が減退してしまっ

たり、人によってはこれがきっかけでメンタルの不調になってしまったりという方もいらっしゃるようです。

それからもう一つ、職場が結構大きな要因になっているようです。研究関連の職場である、大学教員である、それ以外の会社や小中学校、高校などという場合もあるのですが、研究費の支援があるかどうか、上司・同僚からの応援があるかどうか、研究時間が確保できるのかどうかといった状況。推奨される職場ですと、職務として研究があると研究しやすいですし、同じ研究者の同僚・上司から助言ももらえます。そうすると、やはり採録、合格しやすいという状況になります。そうでない、推奨されない職場、研究がそもそも職務に含まれないような職場ですと、なかなか研究が進まずに長期にわたってしまいがちであったり、例えば研究の場であったとしても、研究をそれほど頑張るという雰囲気でない職場の場合には、自分だけ頑張っているという気分になってしまって、これも継続の危機になってしまうということです。それがもう本当にフェードアウトして退学となってしまう方もいらっしゃいますし、あるいは、このようなことがあっても研究コミュニティでの励ましがあることによって頑張ろうと思って博士号を取得できるという方もいらっしゃるということがインタビューで分かりました。研究コミュニティについては、またあとでお話ししようと思います。



そして、ここに女性の場合は家庭の状況が大きく関わってきます。出産・育児、介護。男性は関係ないということは全くないのですが、どちらかというと女性のほうが大きく影響を受けているとインタビューでも示されておりました。また、パートナーの協力の有無も結構大きいです。



そして、女性の学びを取り巻く状況なのですが、こちらはインタビューのデータを分析して図にしたものなのですが、結構衝撃的です。学びを取り巻く状況として、まず周りの人たちの女性の学び直しを取り巻く価値観というものがございます。学び直しは当たり前だと思っている人が周りにいる場合と、「大人の学びは道楽だ」「通信教育なの？」というようなことを思っている人が多い。これは、女性であること、女性が学ぶことについて、女性に学歴は不要だ、女性には子どもを優先させるべきだ、家事は女性がやるものだ、というような考え方を持っている人が家族であったり職場の上司だったりとなると辛いことになります。周りの人から、否定的な人からは学んでいること自体を馬鹿にするような言葉であったり、無関心、非協力的な言葉、辛辣な言葉が浴びせられつつ学びを継続している。それから、学び直すことに肯定的な人から、周りの人から「頑張って」という励ましの言葉や学習に専念するための支援がもらえるという状況になっております。結構、理解を得るための働きかけを積極的にされている方もいらっしゃいました。この学びがどう仕事に繋がっているか、目の前の相手にどう利益を与えるかということを一所懸命アピールする。そうすることで協力をしてもらっているというような方もいらっしゃいます。逆に、協力、理解してもらえないという方は、どちらが先かという問題でもあるのですが、なかなか勉強している内容について言えない状況。ですから、ますます分かってもらえないというような状況もあるようです。

チャットでドン！

- ▶ ご自身のゼミに、社会人学生が在籍していた、あるいは在籍していたことがある先生にお尋ねします。

1. 社会人学生への対応について困っていること【困っていたこと】があれば、差し支えない範囲でチャットにお書きください。

18

これまでが女性社会人学生の学習環境についてでした。ここで「チャットでドン！」でいきたいと思います。先ほどの練習のときに、社会人学生がいらっしゃる、いらっしゃらないを伺ったのですけれども、ご自身のゼミに社会人学生が在籍している、あるいは在籍したことがある先生にお尋ねします。ここでのゼミは研究指導の研究室にいるという意味です。研究指導をしている学生の中に社会人がいるかということです。社会人学生の対応について困っていること、あるいはかつて困っていたことがあれば、差し支えない範囲で結構ですのでチャットにお書きいただけないでしょうか。では、よろしくお願いします。チャットでドン！では、森田先生、ありがとうございます。伺ってみたいと思うのですけれども、森田先生は顔出しはOKでしょうか。

森田 はい。

石川 ありがとうございます。さあ、これからというときに結婚・妊娠。修士の学生さんですか。

森田 いいえ。ドクターコースです。

石川 ドクターのコースですか。身に覚えがあるので。お話を伺ってもいいですか。

森田 はい。今まで、私どもの研究室では3人の社会人大学院を受け入れております。一人は、もう博士号を取得して修了しております。あとの二人が、今、D3に在籍しております、D4になるタイミングでもう一人いたのですけれども、そのD4とD3の学生がともに妊娠を迎えまして、途中、休学をせざるを得なくなったり、あるいは休学せずに頑張っているのですけれども、どうしても物理的に難しいこと

が続いているという状況でございます。

石川 ありがとうございます。では、3年で修了は難しいという状況ですか。

森田 そもそも、私どもの薬学研究科の長期履修生でございますので、最長8年間かけてということではあるのですが、もちろんできれば早くに修了したいという希望を持っています。のんびりするつもりは、元々、本人もないですし、私どもも最大限効率良く指導してまいりたいと考えておりますけれども、どうしてもそのような結婚・妊娠・出産・育児ということが控えますと、やむを得ない部分が出てまいります。

石川 ありがとうございます。私も博士の2年のときに子どもを産みましたので5年かけたのですが、大変でした。ありがとうございます。やはり、どちらを優先するかというのは私も含めてすごく悩むところです。結婚・妊娠は待ってくれないなど、色々考えるのです。ですので、年数かけてでも、本人がいろいろと覚悟しているかどうかというのが学位取得に結びつくかどうかなのではないかと思います。どうもありがとうございます。時間がなくなってきたので次にかせていただきます。

チャットでドン！

▶ ご自身のゼミに、社会人学生が在籍していた、あるいは在籍していたことがある先生にお尋ねします。

1. 社会人学生への対応について困っていること〔困っていたこと〕があれば、差し支えない範囲でチャットにお書きください。
2. 困っていることに対して、こうすれば良いのではという案があれば、チャットにお書きください。

19

これはちょっと飛ばします。

2. 女性社会人学生のニーズ

1. 女性の社会人学生の学習環境
- 2. 女性社会人学生のニーズ**
3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント
4. 質問タイム

20

では、次、女性社会人学生のニーズについてお話をさせていただきます。

社会人学生のニーズ

- ▶ 社会人のニーズに合った授業
 - ▶ 社会人だからこそ役に立つ内容の授業もあるといい
 - ▶ 若年の学生よりもやや実践的な知識を求めている
 - ▶ オンラインで受けられる授業が増えるといい
 - ▶ ゼミは定期的にあると、研究のペースが掴める

21

まず、ニーズなのですが、インタビューを元に、私自身や私の周りの話も若干交えてお話しさせていただきます。

まず、社会人のニーズに合った授業があるといいということで、社会人だからこそ役に立つ内容の授業もあるといいと考えている方が多いようです。若年の学生よりも、やや実践的な知識を求めている傾向があります。それから、オンラインで受けられるといい、ゼミ、研究指導は定期的にあると研究のペースがつかめると考えております。

社会人学生のニーズ

- ▶ 社会人（パートタイム学生）の生活や実情に沿った運営
 - ▶ 必修科目こそオンラインがいいのに…
 - ▶ 平日昼間に提出物を持参してって…郵送やオンライン提出じゃダメなの？
- ▶ 金銭的支援
 - ▶ 企業などの奨学金は年齢制限や所得制限で応募できない
 - ▶ 研究費の自腹はつらい

22

それから社会人、パートタイム学生になるわけなのですが、生活や実情に沿った運営をしてもらいたいという意見もあります。必修科目こそオンラインがいいのに通わなければいけないとなると仕事とのやりくりが大変ということです。それから、平日昼間に提出物を持参ではなく郵送やオンライン提出ではいけないのか。ここも、仕事との兼ね合いが悩みどころです。それから金銭的支援です。企業などの奨学金、年齢制限や所得制限でなかなか応募ができない状態です。それから研究費です。研究機関に所属していなければ自腹になってしまうので、謝礼などが全部自腹になってしまいます。

社会人学生のニーズ

- ▶ 大学コミュニティへの参加のきっかけの提供
 - ▶ eスクール：大学主催の懇親会
 - 居住地別ホームルーム（飲み会、イベント参加）
 - サークル活動
 - （科目履修検討会、新入生歓迎会、卒業祝賀会）
 - ▶ 熊本大学GSIS：合宿（まなばナイト）、ニュースレター

23

それから大学コミュニティへの参加のきっかけの提供があるといいなというのがあります。学部のほうなのですが、eスクール、こちらは大学主催の懇親会が年に2回、学期の最後にあります。それから居住地別ホームルーム。1クラス30人ぐらいでしょうか。それ

で誰か思い立った人が飲み会を企画したり、イベント、早慶戦に行くというようなことをやっているということです。それからサークルが一つだけありまして、このようなイベントもやっているということです。

それから、熊本大学の大学院にG S I Sといわれているインターネットの研究科があるのですけれども、「まなばナイト」という名前で合宿をやっているようです。それから、定期的にニューズレターを配信するというようなきっかけの提供がされています。

研究コミュニティの重要性

- ▶ 研究コミュニティ
 - ▶ 教員（主指導、副指導、科目担当）
 - ▶ 研究室・講座のメンバー（先輩、同期、後輩）
 - ▶ 同じ研究科の学生、同じ／ほかの大学の学生
 - ▶ 職場の研究者
 - ▶ 学会
- ▶ 成熟した研究コミュニティでは、学位取得の要件をクリアするための指導や情報共有の体制が整えられている
- ▶ コミュニティに参加するかどうかは学生の判断ではあるものの、交流のきっかけは大学から提示されたほうがよい

24

そして、今、交流のきっかけが…というお話をしたのですけれども、研究コミュニティの重要性がインタビュー調査で分かりました。研究コミュニティは、教員であつたり、研究室・講座のメンバーであつたり、それ以外の学生、職場の研究者、それから学会の研究者などが含まれるかと思うのですけれども、成熟した研究コミュニティでは学位取得の要件をクリアするための指導や情報共有の体制が整えられている。このような手順でやっていくといったことを指導教員の先生がよく考えてやっていたり、大学全体の中でどのように進めるかというのがある程度ガイドラインになっていたりするような形です。そして、コミュニティに参加するかどうかは、学生の判断ではあるものの、交流のきっかけは大学から提示されたほうが良い。これは、参加したい、したくないというのはそれぞれあると思います。しかし、このようなものがあるというのは大学から提示されて、それに行くかどうかというのは本人に委ねるというのが結構大事ではないかと思います。

女性社会人学生のニーズ

- ▶ 子どもがいても学習・研究できる環境の整備
- ▶ 託児施設、託児サービスへの金銭的援助があるといい
- ▶ 大学に子どもも連れていければ…

**所属ゼミの
eスクール生&大学院生
合同研究発表会
(平均年齢高め+3歳児)**

子育て中の教職員・学生をサポートします！

わが子も通っても学べ、授業再開も、お祝い感があふれます。
ご希望の際は、カウンセラーがサポートいたします。

本サービスは、子育て中の教職員・学生をサポートするため、授業再開のサポートを行います。

●対象
小学生から大学院生までの学生が対象となります。

●お申し込み
1. 所属のゼミ長へお申し込みください。
2. 所属のゼミ長へお申し込みください。

●お申し込み
1. 所属のゼミ長へお申し込みください。
2. 所属のゼミ長へお申し込みください。

●その他
1. お申し込みは、所属のゼミ長へお申し込みください。
2. お申し込みは、所属のゼミ長へお申し込みください。



子育て中の教職員・学生をサポートするため、授業再開のサポートを行います。

25

それから、女性社会人学生のニーズです。今までは女性か男性かはあまり関係ないお話だったのですけれども、女性ということで申しますと、子どもがいても学習・研究できる環境の整備がされているとありがたいということで、託児施設、託児サービスへの金銭的援助があるといいという話もありました。それから、いつでも家族に預けてというのはなかなか難しいので、大学に子どもも連れていけるといいというのがあります。私は、実際、指導教員がこの先生なのですけれども、了承していただいて普通にゼミに連れて行っていました。こちらは、eスクール生と大学院生の合同研究発表会の際の記念撮影なのですけれども、平均年齢が非常に高く、そこに3歳児が混ざっています。4、5年ぐらい前です。みんなに構ってもらえるという状況でした。

それから早稲田大学なのですけれども、2017年から10歳以下の子どもは同伴して図書館に入れるようになりました。これは、私がお願いしたといいますか、お話をしたら実現してしまったのです。eスクールもあるのに、子どもを連れて入れないというのは不便だということをお話しすると3か月後に入れるようになりました。本当にありがたかったです。

女性社会人学生のニーズ

- ▶ 修了後の進路情報
 - ▶ 「大学教員」か？ 「大学教員以外」か？
 - ▶ 公募情報の入手方法は？ 公募への応募の仕方は？
- ▶ 研究者としてのキャリア形成の問題点
 - ▶ キャリア初期は「任期付き」
 - ▶ ポスト探しの制約
 - ▶ 専門領域によってはポストが少ない
 - ▶ 年齢による制約（50代、60代）
 - ▶ 女性であることによる制約（特に子育て中）
 - ▶ 「家から通える範囲」か「子連れ赴任」かの2択

26

それから、女性社会人学生のニーズ。修了後の進路情報です。目の前のことに精一杯で、そのあとのことを意外と考えていなかったりします。大学教員か大学教員以外か。それから、大学教員を目指すのであれば公募情報の入手方法、応募の仕方、作法についても誰かに教えて欲しいという状況です。

それから研究者としてのキャリア形成の問題点としまして、キャリア初期は、社会人であっても、40代、50代であっても最初は任期付きからスタートすることがほとんどです。それから、ポスト探しの制約も多くあります。専門領域によってはポストが少なかったり、あとは年齢による制約です。50代、60代で学位を取ってもなかなか採用してもらえないといった状況があります。それから女性であることによる制約。特に子育て中です。家から通える範囲、あるいは子連れ赴任かの2択になります。ですので、博士号を取ってもなかなかお仕事が見つからないというような状況がありますので、早めにするのかというのを考えて、情報があって、それで研究と並行しながら決めて、あるいは応募してというのができるといいのではないかと思います。

3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント

1. 女性の社会人学生の学習環境
2. 女性社会人学生のニーズ
- 3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント**
4. 質問タイム

27

そして3番目にまいります。オンラインを取り入れた授業運営のヒントということで、社会人の学生を受け入れるとなると、やはりオンラインを入れられるとお互いに便利なのではないかと思います。

リアクションタイム

- ▶ ご自身の授業やゼミに、オンラインを取り入れてみたいと思いますか？
(困ったときには相談先の部署があると想定します)
- ▶ 取り入れてみたい！ → 
- ▶ サポートしてもらえなら考えてもいい → 
- ▶ 取り入れたいと思わない… → 

28

リアクションタイムにいきたいと思います。ご自身の授業やゼミ、研究室、研究指導にオンラインを取り入れてみたいと思いますか。困ったときには相談できる部署がきちんとあると想定します。何か分からないことがあったときに尋ねることができるような状況であったとして、オンラインの授業を取り入れてみたいと思いますか。取り入れてみたいと思う方はハート、サポートしてもらえなら考えてもいいという方はグッドボタン、取り入れたいと思わない方は微妙な顔のスタンプがあると思います。リアクションボタンをお願いします。ハートがたくさんあります。「いいよ」という方もいらっしゃいます。ありが

とうございます。オンライン学習専門なので、すごく嬉しいです。ありがとうございます。

オンライン授業

- ・ 教員がネットワークを介して授業映像を異時配信（オンデマンド配信）もしくは双方向による同時配信（リアルタイム配信）する教授活動 （森田, 2022）
- ・ 学習管理システム（Learning Management System ; LMS）で提供、課題管理をすることが多い



図3 コロナ禍中の大学授業形態（鈴木, 2021を参考に作成）

29

では、オンライン授業を取り入れるとしたらどのようなことができるかということなのですが、オンライン授業、教員がネットワークを介して授業映像を異時配信（オンデマンド配信）、もしくは双方向による同時配信（リアルタイム配信）する教授活動ということです。学習管理システムで提供、課題管理をすることが多い。同期型、同時に「こんにちは」とやるのが対面授業、それからリアルタイム授業。そして、対面の中でオンラインも繋ぐというハイフレックス型の授業もあります。それからビデオを流す非同期型です。このようないろいろな種類がございます。

オンライン授業を取り入れるなら

- ・ 知識のレクチャー中心
 - ➡オンデマンドビデオ（3年くらいは使い回せる）
- ・ 演習・実習
 - ➡対面ベースで、内容によってはオンデマンドビデオ
 - ➡（小規模なら）対面に来られない人がいるときだけハイフレックス（対面で授業しながら、Zoomで繋ぐ）
 - ➡対面で授業をしながら、Zoomでレコーディングしておく
 - 学習管理システムからビデオとして視聴することを「出席扱い」とする（視聴履歴が残るなら）

30

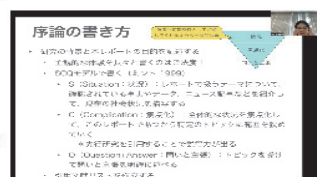
もし取り入れるのであれば、最近色々やってみて、私の周りも含めてなのですが、知識のレクチャー中心であればオンデマンドビデオでいいということで、ビデオを撮って配信する。ビデオは、時事ネタを入れなければ3年くらいは使い回せます。ですので、結構便利です。それから、演習や実習は、やはり手を動かすというものと「違うよ」、「合

ってるね」とすぐに言えるほうが効率はいいと思います。ですので、対面ベースで、もし知識のレクチャーの回があれば、そこだけオンデマンドビデオにしてしまうなど。あとは、小規模、数人でやるというのであれば、対面に来られない人がいるときだけハイフレックス。対面で授業しつつ、来られない人と Zoom で繋いで、「そっち聞こえてる？」「大丈夫？」というような形での授業も周りではやっています。それから、どちらもなのですが、対面で授業をしながら Zoom で授業をレコーディングしておいて、学習管理システムからビデオとして配信して、それを視聴すればもう出席扱いとするというようなことも早稲田ではやっております。なぜならば、この学習管理システムには履歴が残るのでそれが可能なのです。履歴が残っているのです、これも出席扱いにしまおうという形になっています。

オンデマンドビデオの撮り方

▶ 撮り方

- ▶ 対面授業をZoomなどでレコーディングしておく
- ▶ 1人でZoomを立ち上げて、レコーディング機能で録画する
(一発撮り！ かんでもご愛嬌)
- ▶ 学生に孤独感や疲労感を感じさせない工夫
 - ▶ 教員の顔を出しておく
 - ▶ 表情、身振り手振り
 - ▶ 教員と学生、教員同士の掛け合いを撮る
 - ▶ 1本あたり15分くらいに切る
 - ▶ 1回あたりの課題を出しすぎない



それからオンデマンドビデオの撮り方なのですが、対面授業を Zoom などレコーディングしたり、一人で Zoom を立ち上げてレコーディング機能で録画したり。一発撮りで噛んでしまってもご愛敬ということで、撮って、それを配信する。結構、気楽にできます。

それで学生に孤独感、疲労感を感じさせない工夫がいくつかございますが、教員の顔を出しておいたほうが孤独感を感じないということです。こちらは、私が顔を出しつつ「ちゃんと書いてよ」というようなことをいっている感じでしょうか。表情や身振り手振りは結構重要です。それから、Zoom での収録に学生を数人呼んで授業しているところを録画して、それをビデオ配信するなどということをしている先生もいらっしゃいます。また、教員同士で掛け合いを撮って、それを配信するというようなことも評判がいいということです。

それから、1本あたり 15 分ぐらいに切ると飽きないです。それから、1回あたり、ビデオを観て課題というのがセットなのですが、課題が多すぎると学生さんが手一杯になってしまうという点には注意が必要です。

オンデマンドでの工夫

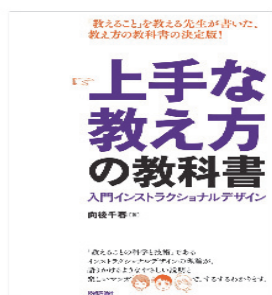
- ▶ 学生あるある
 - ▶ 開始ボタンを押して、視聴はしない（視聴履歴は残る）
 - ▶ 睡眠学習
 - ▶ 先延ばし
- ▶ 確実に視聴をしてもらう工夫
 - ▶ クイズを入れる
 - 学習管理システムで回答を提出してもらう
 - ▶ 小レポート（リフレクションコメント）を書いてもらう
 - 150～350字程度なら毎週でも重くない
 - 量と質が十分なら期末試験や期末レポートは不要
- ▶ 課題に対してフィードバックする

32

それから工夫なのですが、学生あるあるで、開始ボタンを押して視聴しない。しかし、視聴履歴は残るので、もう視聴したことに一応見た目はなるのですけれども見ていない。それから、ボタンを押して睡眠学習しているなど。あとは、なかなかパソコンを開くというところまでいかずに先延ばししてしまって、観ないで、そのままやらないで終わってしまうといったこともあります。ですので、確実に視聴してもらう工夫として、クイズを入れて解答してもらい、それを採点する。また、見たうえで小レポートやリフレクションコメントを返してもらう、採点するといったこと。これは150字とか350字ぐらいまででしたら、毎週でもそれほど重くはないので毎回やってもらえます。それから質、量が十分なら期末試験、期末レポートは、もうこれをこつこつやっているのでも不要ということもできます。あとは、課題に対してフィードバック。やらせっぱなしではやる気が落ちてしまうので、なるべく早めにフィードバックしてあげるとペースがつかめるのではないかと思います。

おすすめの本

鈴木 克明（監修）・市川 尚・根本 淳子（編著）（2016）
 インストラクショナル・デザインの道具箱101 北大路書房
 授業設計するときに使えるヒントが、理論とともに紹介されています。



向後 千春（2015）. 上手な教え方の教科書—入門インストラクショナルデザイン— 技術評論社

科学的な「効率の良い上手な教え方」が紹介されています。学習者に学習が生じたことを持って「教えた」とみなす「成功的学習観」をベースに授業設計する手順が学べます。



33

そして、オンラインで授業をする場合、どうしたらいいかと思うところなのですが、こちらはインストラクショナルデザインの専門の先生たちが書いた本なのですが、お勧めです。こちらは『インストラクショナルデザインの道具箱 101』です。こちらは、授業設計するときに使えるヒントが理論とともに紹介されています。それからこちらのほうは私の指導教員、師匠になるのですが、『上手な教え方の教科書』です。科学的な効率の良い上手な教え方が紹介されています。学習者に学習が生じたことをもって教えたと見なす成功的学習観をベースに授業設計する手順が学べます。こちらは、ぜひ興味がありましたらお手にとってみてください。

リアクションタイム

- ▶ ご自身の授業やゼミに、オンラインを取り入れてみたいと思いますか？
(困ったときには相談先の部署があると想定します)
- ▶ 取り入れてみたい！ → 
- ▶ サポートしてもらえらるなら考えてもいい → 
- ▶ 取り入れたいと思わない… → 

34

ということで、最後のリアクションタイムなのですが、ご自身の授業や研究指導にオンラインを取り入れてみたいと思いますか。今、コツなどをお話ししたのですが、もう1回聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。ハート、グッド、うーん。では、お願いします。少しハートが増えたでしょうか。既にやっつけらる方もいらっしやるかと思ひます。やり始めてみると、結構、はまる方ははまると思ひますか、効率が良かったりします。最初は、慣れないことをするのは結構大変ではあるのですが、やってみると意外と簡単にできてしまったりします。

チャットでドン！

- ▶ 大学院として女性社会人学生を受け入れていくことになったら、学生の学習・研究環境を整えるために、自分には何ができると思いますか？ チャットにご入力ください。
- ▶ 先生方ご自身の手間や効率も含めて、考えてみてください。

35

それから、今日の目標、教育ゴールはこちらだったのですけれども、チャットでドン！へいきましょう。大学院として女性社会人学生を受け入れていくことになったら学生の学習・研究環境を整えるために自分には何ができると思いますか。チャットにご入力ください。その際に、やってあげることばかりではなくて、先生方ご自身の手間や効率なども含めて考えてみてください。では、チャットでドン！一つ以上ということなので。皆様、短文で結構です。

では、コメントを読んでいきたいと思います。ご自身が社会人学生だった方がいらっしやいます。半年休学すると復帰するのに、勘を取り戻すのに1年かかりました。オンライン教材についても書いていただいています。企業との連携研究。それぞれ聞いてみてからヒヤリング。そうですね。雑談タイムはすごく重要だと思います。他の先生と被っていてもいいです。できるだけ具体的に考えていただけるともっといいでしょうか。コミュニティを作るのであれば、どのようなコミュニティにするかなど、ぜひ考えていただければと思います。社会人だからといって甘くすることはできません。むしろ厳しくいかないといけないのかもしれないかもしれません。コミュニティづくり、コミュニケーション。経験、体験を聞くようにしていますということですね。夜間、オンラインなど柔軟な対応。いろいろとありがとうございます。やはり、まずコミュニケーション、交流、どのようなことを考えているか、何をしようとしているのかといったこと、いつであれば大学に来られるのかといったことなどは指導の先生が聞いて、すり合わせをしてあげるとするのは大事ではないかと思います。

4. 質問タイム

1. 女性の社会人学生の学習環境
2. 女性社会人学生のニーズ
3. オンラインを取り入れた授業運営へのヒント
- 4. 質問タイム**

36

たくさんのリアクションとチャットをありがとうございます。では、最後に質問タイムです。3～4分なのですけれども何かございましたら、どうぞお願いいたします。

質疑応答

- ▶ リアクションボタンの【👏挙手】を押していただくか、チャットにご入力ください。

37

リアクションボタンの挙手を押していただくかチャットにご入力ください。若本先生、ありがとうございます。「女性社会人、オンライン授業を実現するためには大学当局はどのようなサポートをするべきでしょうか。」こちらは、対象は学生ということでしょうか。若本先生、顔出しはOKでしょうか。

若本 はい。大丈夫です。大学院生のオンライン授業です。今日、石川先生がおっしゃったようなeスクールのようなものを大学院で開設して、そして社会人の女性の方を受け入れるというときに、教員のほうはオンライン授業、オンデマンド授業を作るなど、いろいろな魅力的な授業を作れると思うのですけれども、逆に教員も孤立し

てしまうと思うのです。いわゆる事務機構とか、大学の当局といいますか、大学のシステムとしてはどのような形のサポートを教員にしていける必要があるのでしょうか。

石川 ありがとうございます。まず、ICTスキルが結構様々だと思いますので、ICTスキル、ICTを扱う補助といいますか、助言をする、相談に乗ってもらえるような人といいますか、部署というのは必須ではないかと思います。eスクールの場合は、スタジオがありまして、そこに技術者の方たちが数名常駐していって、ビデオを撮りたいときはそこに行って撮ってもらうという感じで、それで撮ったりしています。慣れている人は自分で撮るといようなことがあります。

若本 なるほど。それはとても大事ですね。教員がZoomでビデオを撮るだけではなくて、そのようにサポートしてくれるところがあるということですね。逆にいえば、大学院生の方を、例えば大学の機構の学生支援課や教務課という方々が、いわゆる普通の在學生と、普通のストレートで上がってきた大学院生と同じような形でオンラインでサポートするということはできるのですか。

石川 はい。可能だと思います。またeスクールの例で恐縮なのですが、やはり大人は、事務センターに電話をして、「これってどうしたらいいですか」と、電話でもメールでも受け付けています。あとは、電話やメールをしたうえで予約を取って、それで相談します。先生ではなくて事務の方に相談するといようなこともされています。

若本 ありがとうございます。よく分かります。今、私がいます文学研究科の英米文学専攻では、例えば、英語教師をされている40代、50代ぐらいの方々と、もう1回、修士課程で教員をしながら勉強したい。しかし、今日、石川先生がおっしゃったように家庭もあるし、学校に通えない。そのようなときにオンラインの授業が大学院であれば参加できるという話があるのですけれども、なかなかシステムの踏み切れないところもあるのですけれども、そのような事務的なスタジオがあったり、事務センターがあったり、教員がICTスキルというものがあれば不可能ではないといようなことなのですね。

石川 はい。そうではないかと思います。今、eスクールを例に出して、大学全体でのお話をしたのですけれども、私が所属しているゼミは、最近は土曜日の夕方に3時間ぐらい修士と博士と時間を決めてZoomで繋いでゼミをしております。それは、指導教員のスケジュールで、その年度は3月中にこの日はゼミをやりますと2週に1度

ぐらい決めて、このとき来られる人はゼミに出てくださいというような形です。もしもそれが全然、タイミングが悪くて出られないというときは個別に対応しますという形で研究指導をしております。社会人が、今、10人ぐらい在籍しています。

若本 それは、夜の授業もあるのですか。仕事が終わってから参加するというような授業は設定していらっしゃるのですか。

石川 早稲田は夜の授業もございますし（注：コースによります）、あとは、それぞれの学生の状況を見ながら、夜にゼミをやろうとって先生が調整をしてゼミを開催しているという研究室もございます。

若本 よく分かりました。ありがとうございました。

石川 では、木島先生でよろしいでしょうか。社会での経験があるからこそ持てる着眼点があると思います。その着眼点は文学や文化、思想や哲学をより深く理解することに役立ちます。それを学部生とも共有する場を提供したいです。ありがとうございます。木島先生、顔出しはOKでしょうか。

石川 まず、私のほうからお話しさせていただくと、私の所属していたゼミでは、ゼミ研究発表会のようなものを学部と大学院とで合同でやっておりました。ですので、本当に若い人から社会人まで、多かったので 50人プラス外部の方や同じ大学の人間科学部や人間科学研究科の中で、興味のある人が集まって 100人ぐらいの規模で研究発表会などをしておりました。そのようなときに、就活の悩みを相談したり、取り組んでいる研究が近い人同士で議論をしたりしていました。お答えのヒントになったでしょうか。

質問は二つだったようですので、その他になれば終了かと思うのですが、いかがでしょうか。

池ノ内 椎名先生が不在ですので、進めさせていただきます。学長が最初、機器の調子が悪くて入室ができなかったとお聞きしておりますので、小崎学長、ご挨拶をお願いできますでしょうか。

引用文献

- 石川 奈保子（2021a）オンライン大学で学ぶ女性の学習環境 日本教育工学会2021年春季全国大会講演論文集、459-460.
- 石川 奈保子（2021b）. オンライン大学で学ぶ女性社会人学生の卒業後の展望と学びに対する周りの人の協力 日本教育工学会研究報告集、JSET2021-4、158-165
- 石川 奈保子（2022）. 博士課程における社会人大学院生の学位取得までの研究活動のプロセス 日本教育工学会研究報告集、JSET2022-4、168-175
- 石川 奈保子（2023）. 博士課程における社会人大学院生の入学同期からキャリア目標設定へのプロセス 日本教育工学会2023年春季全国大会講演論文集、539-540
- 向後 千春（2015）. 上手な教え方の教科書—入門インストラクショナルデザイナー— 技術評論社
- 森田裕介（2022）. 教育工学におけるオンライン教育 日本教育工学会論文誌、46(4)、593-600.
- 坂元 昂・岡本 敏雄・永野 和男（編著）（2012）. 教育工学選書第1巻 教育工学とはどんな学問か、ミネルヴァ書房
- 鈴木 克明（2021）. 大学教育の新たなブレンド型モデルの構築に向けた提言 教育システム情報学会 JSOSE2021第46回全国大会講演論文集、77-78.
- 鈴木 克明（監修）・市川 尚・根本 淳子（編著）（2016）. インストラクショナル・デザインの道具箱101 北大路書房

38

小崎 こんにちは。ありがとうございました。ご講演が始まって直後に入ることができましたのでお話をすべてうかがうことができました。貴重な、先生ご自身の体験も含めて丁寧に、またコンパクトに、また時折りアクションのことをしていただいて。それこそ、今日は最初、孤独感満開で、機器に入れないとこれほど疎外感を感じるのだという学生の気持ちに少し共感しながら、しかし、こうやって合流できたことをとても嬉しく思います。今後、本学におきましても様々な可能性を模索していきたいと思いますので、引き続きいろいろな意味でご助言を賜れば幸いに存じます。今日は、お時間をとっていただいて、またこのような時間帯が的確であったかは分かりませんが、いろいろな意味でまたアイデアを分かち合いいただけたらと思います。本当にありがとうございました。

石川 ありがとうございました。

椎名 教務部長の真部先生、よろしくお願いします。

真部 石川先生、本日はありがとうございました。本学でも、大学院に進学してもらう学生を増やさなければならない。なかなかストレートで、卒業してすぐ大学院に上がっていくという学生が少ないので、このように職業上の必要性から上がる、進学を考える学生さんや、大学院生や、また、人生のやり残し感と最初おっしまったと思うのですけれども、そのようなことを踏まえて進学を考える大学院生さん、そのような学生さんの受け皿になっていくということが本学にとっても求められていることではないかと感じております。そのうえで、やはり難しさというのがあると個人的には思っておりましたけれども、受け止め方は先生方と私は違っていたかもしれないですけれども、先生がおっしゃってくださったのは、やはり人と人との繋がり。

特に大きな組織が必要とか何かがいるというのではなくて、むしろ担当教員や周りのサポーターになる人がいかにその学生さんの創造力を、相手の方の立場を、どのような状況かということ想像しながらやっていくことが、学びをサポートしていくことが必要なのだということを伝えていただいたのではないかと勝手に私は解釈しております。人間の気持ちといいますか、そういうところが大切だといっていたような気がします。大きな大学ではなくて、私どものような大学でも社会人の女性の大学院生の受け皿となれる可能性が十分にあるのではないかと少し励まされたような思いもあります。逆にいうと、われわれ教員の責任も感じなければならぬというようなことを大変勉強させていただいたと思います。本当に、この遅掛けの時間から貴重なお時間をいただきましたこと、他の教員に成り代わりまして改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

石川 こちらこそ、ありがとうございました。何かのヒントになればいいなと思います。できるところからでいいのではないかと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

椎名 では、最後に皆さん方からリアクションを盛大にお願いしたいと思います。ありがとうございました。

◆学部 FD◆

学芸学部 FD 報告

学芸学部長 椎名 亮輔

学芸学部では、2023 年度も前年度に引き続き、「10min.FD/Labo.」と題して、各月に担当を決めてそのタイトルに相応しい動画を製作・提出してもらい、その配信を各教員が試聴し、感想・質問を書くという形で FD 活動を行った。2023 年度の担当は以下のとおりであった。

5 月 国際教養学科アンドリュー・C・エリオット教授 (Labo.)

7 月 国際教養学科イザベル・ファスベンダー助教 (Labo.)

8 月 音楽学科牛渡克之教授 (FD)

10 月 メディア創造学科川田隆雄教授 (Labo.)

11 月 音楽学科河江優教授 (FD)

12 月 音楽学科鈴木琴栄助教 (Labo.)

2024 年 1 月 メディア創造学科高木毬子教授 (FD)

原則として「10min.FD」の方が FD 活動に当てはまる内容になっているが、「10min.Labo.」であっても、担当者それぞれの教育・研究の内容についての発表であり、これが他教員にとっての新たな教育・研究への気づきにつながる可能性があるという意味ではこれもまた FD 活動と呼べないこともないと思われる。

それぞれの内容について述べると、5 月のエリオット教授は、自らの研究、すなわち、日米・日英関係史、とりわけ旅行を巡る相互のイメージ受容史について紹介した。7 月のファスベンダー助教は、「妊活」という言葉をめぐる日本の生殖ポリティックスについての発表であり、表には現れないさまざまなファクターについて語られた。8 月の牛渡教授は、担当する科目である「オーケストラ」と「吹奏楽」の授業運営や学生たちの問題点について語った。10 月の川田教授は、「線（体系的）と点（体系的ではない）の教育」について述べ、自分の「点教育」の例としてタイ語学習と生成 AI 使用を挙げた。11 月の河江教授は、自らの演奏家としての活動、その室内楽公演の実情について学びの観点から話した。12 月の鈴木助教は、音楽療法の分野における「芸術の知を用いた研究」について、自ら音楽家・療法士・研究者であるという立場から報告した。1 月の高木教授は、FD の定義である「研究・教育・行政」分野での質の向上を挙げた上で、自らの研究者・教育者・女性アクティベーションセンター委員としての立場から「デザインの分野からジェンダーギャップについて考える」として発表した。

またそれぞれの発表に対する各教員からの感想を見ると、各回にそれに応じた多様な学び・気づきを得られていることがよく解る。これによって、学芸学部というかなり異

質の学科を抱えた学部の中で、お互いを知ることによって学部全体としてのFD活動が活発化していると言っていることができるだろう。

◆学部 FD◆

現代社会学部 FD 報告：〈学部の多様性を力に変える〉～現代社会学部の FD 活動

現代社会学部長 日下 菜穂子

現代社会学部では、「チョコっと FD」という名称で、学部教員会議の開始直前の FD 研修が 2017 年度から行われている。開始から 6 年以上を経た 2022 年度と 2023 年度には、約 10 分間の研修を、各年度それぞれ 9 回、合計 18 回にわたり実施した。毎回の研修は学部教員 1 名ずつが、授業についての報告を約 10 分間で行う。この活動のコンセプトは、互いの授業の特徴を知り、自分の授業に活かせるものを取り入れるとともに、授業間の相互関連性を見出していこうというものである。開始当初は対面で行っていたが、現在は Microsoft Teams の「共有」画面を通して発表が行われ、聞き手の教員が発表者に対してチャットで数行のコメントを送る形式となっている。発表者にはささやかなご褒美として、会議後にメールボックスに応援メッセージ付きのチョコが届く仕組みである。会議前の「ちょっと」した短い時間に行い、応援の「チョコレート」を味わうことから、「チョコっと FD」という名称がつけられた。

2022 年度のテーマは主に、「インターンシップ・プロジェクト科目等の取り組み」、「遠隔授業の工夫」が取り上げられ、演習系の授業や遠隔授業に内在する諸課題や対応策についての報告があった。これらの報告から、演習系の授業や遠隔授業では次のような指導が重要であることが認識できた。(1) 演習を通じた学びを実際の社会課題解決につなげるうえで、プログラムを適切に評価し継続的な活動へと展開する方法を検討する必要があること。(2) 演習系の授業や大人数の講義科目において、履修者の個別のゴール設定と成果をフィードバックする仕組みの整備が大切になること。(3) 大人数の講義科目においては、ハイブリッド型の利点を活かした遠隔授業が有効であること。

2023 年度には、新たに現代社会学部に着任された新任教員による FD 研修を行い、授業運営の工夫や重視していることについて、5 人の新任教員に話していただいた。その中には、学生の意欲を高める上での反転学習の有効性や、研究フィールドを学生の実践の場とする上での地域連携の重要性などの指摘がなされた。

現代社会学部の特徴のひとつとして、多領域の専門性を有する教員から構成され、多分野にわたる学びが展開されていることがあげられる。研修で取り上げられた授業科目(開講学科名 GS は社会システム学科、GK は現代こども学科)についても、2022 年度は GS「専門基礎演習」、「Project Based English: International Teams Project」、GK「保育実習指導 I B」、GS「京都観光学概論」などの科目であり、それらの教育の基盤となる研究の領域は、ジェンダー社会学、特別支援教育・保育、外国語教育学、観光社会学など広範にわたる。上記の FD 活動を通して科目間の課題の共通性が示された。多様な興味関心を持つ学部学生の教育の方向性を見つけていくためにも、現代社会学部では「チョコっと FD」を今後も継続し、学部の多様性を力に変えてさらなる教育の充実に役立てたいと考えている。

◆学部 FD◆

薬学部 FD 報告：薬学教育における医療プロフェッショナリズムを考える

薬学部長 芝田 信人

2024 年度の薬学部入学生から適用される、令和 4 年度薬学教育モデル・コア・カリキュラムのキャッチフレーズは、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の 養成」である。これは、医学・歯学・薬学教育の 3 領域で統一したキャッチフレーズであり、医療人として求められる基本的な資質・能力は、専門分野に関わらず共通していることから、今回の改訂では薬剤師に求められる基本的な資質・能力については、医学・歯学・薬学の 3 領域で共通化されることになった。基本的な資質・能力とは、[プロフェッショナリズム]、[総合的に患者・生活者をみる姿勢]、[生涯にわたって共に学ぶ姿勢]、[科学的探究]、[専門知識に基づいた問題解決能力]、[情報・科学技術を活かす能力]、[薬物治療の実践的能力]、[コミュニケーション能力]、[多職種連携能力]、[社会における医療の役割の理解] の 10 項目である。この中でも「プロフェッショナリズム」は、薬剤師として関わる全ての状況で求められる姿勢であるとされ、6 年間の教育の中でどの程度育まれ、生涯に続く資質として醸成できているかを評価する必要がある。

そこで、2023 年 9 月 12 日（火）、14:00 より、「薬学教育における医療プロフェッショナリズムを考える」をテーマに薬学 FD 講習会を開催した。講師として、慶応義塾大学薬学部医療系社会連携センター・医療薬学部門 教授 鈴木小夜先生をお招きし、現在、医学教育の「プロフェッショナリズム」評価に利用されている Professionalism Mini-Evaluation Exercise (P-MEX) の概念および使用法についての理解、並びに薬学部学生の病院・薬局実務実習における使用経験についてご講演いただいた。



P-MEX 自体は、2007～2008 年に Wilkinson らのプロフェッショナリズム評価ツールの文献レビューに報告されたもので、観察可能な行動・態度を客観的に評価することのできるツールであり、研修医の臨床研修におけるプロフェッショナリズムを信頼性および妥当性の高い形で評価することができるものである 1)。すなわち、プロフェッショナリズムの評価は、研修医の達成度を測りながら、同時に研修医のプロフェッショナリズムを涵養することができる現実的かつ効果的な方法であると考えられる。また、P-MEX はカナダと日本

の両国で妥当性・信頼性が証明された数少ないプロフェッショナリズムの評価ツールでもあり、日本国内での研修医の実習においての使用実績もある 2)．右に日本語版 P-MEX を示す。大項目として、F1～F4 があり、それぞれの項目は、「医師・患者関係構築能力」、「省察能力」、「時間管理能力」、「医療者間関係構築能力」を示し、それぞれの項目を構成する要素が書かれている。それぞれの要素に対して、5 段階の評価で回答・評価するようになっている。講師の鈴木小夜先生により、勤務校の慶應義塾大学薬学部において、項目 F1 の名称を「薬剤師・患者関係構築能力」に変え、薬学部生の 5 年次の実務実習において適用した結果が示された。この P-MEX を実習前、実習後に実施して比較した結果、F1～F4 の項目の平均スコアが有意に上昇し、病院および薬局における実務実習を通じてより学生のプロフェッショナリズムが涵養されたことが示された。

薬学部では、薬学基礎研究や薬学研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの形成評価としてそれぞれのルーブリックを作成することにより運用しているが、2024 年度の薬学部入学生から適用の、令和 4 年度薬学教育モデル・コア・カリキュラムの施行に合わせこの P-MEX を追加運用し、学生のプロフェッショナリズムの涵養状況进行评估していく予定にしている。

F1	Doctor-patient relationship skills
	医師・患者関係構築能力
P1	患者の話を意欲的に聴いていた
P2	患者に対し一人の人間として関心を示していた
P3	患者に敬意を示していた
P4	患者のニーズを認識し、そのニーズに合っていた
P5	患者のニーズに応じるために不都合があっても受け入れた
P6	患者ケアの継続を保障していた
P7	患者や患者の家族の立場を代弁していた
P12	患者や同僚と適切な境界線を保つことができていた
F2	Reflective skills
	省察能力
P8	自分の限界に気づいていることを示していた
P9	自分の失敗や怠慢を素直に認めていた
P10	他者からのフィードバックを積極的に求めていた
P11	他社からのフィードバックを快く受けて入っていた
P13	困難な場面でも平静さを保っていた
F3	Time management
	時間管理能力
P15	時間に正確であった
P16	仕事をきちんと信頼できるやり方で遂行した
P18	患者や同僚の求めに対し、すぐに対応できる状態であった
F4	Interprofessional relationship skills
	医療者間関係構築能力
P12	患者や同僚と適切な境界線を保つことができていた
P14	身だしなみをきちんとしていた
P17	自身の知識や技術の不足している部分について認めていた
P19	同僚に敬意を示すことができていた
P20	相手の名誉を損なうような言葉遣いを避けていた
P21	必要に応じて同僚を補助していた
P22	患者についての守秘義務を遵守していた
P23	医療資源を適切に使用していた
P24	組織のルールややり方を尊重していた

(津川友介/徳田安春 2009 年 7 月 27 日作成)

注：選択肢

4 点、期待を超えてとてもよかった

3 点、ほぼ期待どおりであった

2 点、期待以下であった

1 点、不適切であった

0 点、評価不能

(3 点を基準点とするように採点し各項目でそれぞれ評価する)

文献 2) からの引用

- 1) Wilkinson TJ, et al : A blueprint to assess professionalism : results of a systematic review. Acad Med 84 (5) : 551—558, 2009.
- 2) 津川 友介 医師のプロフェッショナリズム評価とその先行的実践から：日本内科学会雑誌 第 101 巻 第 5 号・平成 24 年 5 月 10 日：1440-1445.

◆学部 FD◆

看護学部 FD 報告

看護学部 高城 智圭

2021 年度より学生が合理的配慮を表明する場合、障がい学生サポートセンター（以下、SSC）の支援を受けて、要配慮文書が科目担当教員に配布され、各担当教員が合理的配慮を行いながら授業を進めてきた。2022 年度からは、実習科目についても SSC と看護学部で情報を共有し、実習指導に活かしてきた経緯がある。これまでは各担当教員がそれぞれ対応してきたが、これまでの実績を教員間で共有することで、今後の学生支援につながるのではないかと考えた。

そこで、「合理的配慮を表明する医療系学部在籍学生への支援のあり方」をテーマとし、「医療系学部において合理的配慮を有する学生の現状や対応の実態を理解し、今後の学生指導、方策に活用する」ことをねらいとした FD 研修を企画した。

研修では、テーマに沿ったグループワーク及び発表を行った後、オブザーバーとして出席いただいた SSC の先生から SSC での学生対応の具体的内容についてご報告いただき、今後の学生支援の方策に向けたご示唆をいただいた。

対象教員 32 名中、受講アンケートの回答は 29 名（回答率 90.6%）であった。テーマ設定は「良かった」「まあ良かった」が 29 名（100%）であり、ニーズに応じたテーマであったことが推測された。また、テーマに関する理解が「深まった」「まあ深まった」は 26 名（89.7%）、今後の学生指導に活用できると回答した者は 24 名（82.8%）と、概ねねらいが達成できたと考えられた。開催日時の設定や当日の時間配分については、「良かった」が 23 名（79.3%）であった。自由記載では、「グループワークでどの教員も戸惑っていることがわかった」「教員間での情報や関わり方の共有はとても参考になった」「学部全体だけでなく、SSC やご家族を交えた連携が重要と気づいた」「SSC の先生とお会いし、顔の見える関係の第一歩になったと感じた」等の意見が出された。また、「SSC での対応例をもう少し聞きたい」「具体的な支援についての示唆が得られる方が良い」「今回のテーマをさらに掘り下げて学ぶ機会があると良い」等、本テーマで継続した研修を求める声もあった。

グループワーク及び発表を通して、障がいの状況や合理的配慮の内容は、学生によって多種多様であり、特に実習指導においては他の学生とのグループダイナミクスの観点から、対応の難しさを多くの教員が感じていることが明らかとなった。

今回のテーマを看護学部 FD 研修で取り上げるのは初めての試みであったが、アンケート結果から、合理的配慮を要する学生への支援に関する関心は非常に高く、教員間及び教員と SSC 間での情報共有の良い機会となったと考える。

今回の看護学部 FD 研修で情報共有された現状と課題をもとに、さらに合理的配慮を要する学生への具体的な支援について深めていく機会をもつことが課題となった。次年度は、

合理的配慮を要する学生への支援について、特に困難な場면을有する実習指導に焦点を当てた研修を検討していく。

◆学部 FD◆

表象文化学部 FD 報告：「表象文化 café」の意義と可能性

表象文化学部長 鈴木 健司

「表象文化 café」は、表象文化学部の教員が話題提供する「自由な語り合いの場」として行っている催しである。学部の FD として 2021 年秋に開始して以来、授業期間中に毎月 1 回の頻度で行われ、開催回数は 2024 年 1 月で 20 回に達した。

日時や場所は担当者次第という取り決めではあるが、平日ランチタイムに楽真館ラーニング・コモンズ 1 階イベントエリアで実施するスタイルが定着している。会場は、テーブルも椅子も普段の並びのままで、司会者もいないので、定刻になると講演者はマイクを手に取り前置きもなく話し出す。日常生活の中に突如として知的な空間が現出する約 20 分間は、実にラーニング・コモンズらしいひとときと感じられる。

登壇の義務やノルマは設けず、すべて自由意思による立候補で実施しているが、誰も手を上げなくて困る事態に陥ったことはない。常に 2 か月ほど先まで担当予定者が決まっており、2 回目の登場者も増えてきた。負担が増えるだけではないかといった当初の懸念はこれまでのところ杞憂だったようで、各人が演者として、また聴衆として、楽しんで参加することで回を重ねてきた結果、意義や効果が明確に実感されるようになってきた。

FD としての表象文化 café は、あるときは聞く立場で授業の方法や内容につながる発想を獲得し、あるときは話す立場からそれらを実践してみることができるといった継続的なサイクルが回っていることに、大きな特徴があると言えるのではないか。ちょうど学生がゼミで研究発表を通じて向上していくのと同じように。

表象文化 café は、それを楽しみにやってくる聴衆もいるにせよ、授業や一般的な講演会とは異なり、とくにそれを期待してその場にいるわけではない多数の食事中、自習中、歓談中の学生たちの前で行われる。その彼女たちもいつしか話の内容に引き込まれ、次第に演者の世界が広がっていく。その様相（見せ方、話し方）は人により大きく異なっているので、それを見聞するだけでも新鮮で有益な体験である。

表象文化 café は、教員各自が自己の新たな可能性を引き出す場でもある。専門分野に関わるちょっと面白い話、あるいは自分の研究の最前線といった観点から語られることが多いが、それらに限定されるものではなく、生き方やライフハックに関する話題が出されたこともあった。各自が教員・研究者として関心事について話題提供する手法や切り口を考え試すうえで、授業や学会発表とは異なるもう一つのフォーマットとしての意義がある。

表象文化 café は、狭義の FD を超える形でも機能している。過去 20 回のうち、両学科の教員がペアで担当したものが 4 回、同一学科の教員がペアで担当したものが 3 回あった。学部内・学科内での協働を促し、日本的なものと英語的なものととの共通点や相違点に着眼して、英語英文学科と日本語日本文学科から成る表象文化学部ならではのコンテンツを生み出し、一体感を醸成するうえでも効果を上げている。

京田辺キャンパスで開催されたアニバーサリー・ホームカミングデー2023 では、表象文化 café の拡大版の形で、辻英子准教授と森山由紀子教授のトークセッションを聡恵館ラーニング・コモンズで行った。学芸学部時代に京田辺で学び、懐かしいキャンパスに自学科が不在の英語英文学科・日本語日本文学科の卒業生には、両学科の今を感じていただける良い機会となった。表象文化 café の定期的な開催があったからこそ可能になった企画であった。

以上のように、表象文化 café は FD としての当初の目的を着実に果たしつつ、これを軸とした新たな応用や発展の可能性も見える。今後に期待したい。

◆学部・大学院研究科 FD◆

生活科学部/生活科学研究科 FD 報告：認証評価の指摘を受けて

～「生活科学部・生活科学研究科 FD 研修（仮称）」スタート～

生活科学部長/生活科学研究科長 山本 寿

本学は、2021 年度に受審した認証評価で「FD 活動において、研究活動や社会貢献についての活性化や資質向上を図るための取り組みがなされておらず、改善が求められる」との指摘を受けた。生活科学部・生活科学研究科の全教員は、本学教員の一人として、全学的な FD 活動に参加しているが、その内容は主に「教育」的である。各学科・専攻で開催されている卒業論文発表会や修士論文発表会・研究セミナーは教員の研究内容を互いに知る機会となっているが、ゼミ生や院生の発表を経由しての間接的な交流に留まっている。教員自らが自己の研究活動や社会貢献を直接、他の教員と共有する機会は自発的・散発的なものに過ぎず、学部や研究科で組織的に運営されたものは存在しない。その意味で認証評価の指摘は、本学部・研究科の現状についての的を射ていると言わざるを得ない。

そこで2022年度、この状況を改善することを目指し、2023年度以降、年2回程度、教員会議の中に、「生活科学部・生活科学研究科 FD 研修（仮称）」の時間を設け、教員個々が研究活動や社会貢献の一端を他の教員に紹介し、共有する機会とすることを構想した。例えば、自己の研究課題に関わるアイデアや方法論を紹介する、発表論文や学会活動や地域貢献の内容を他の教員にわかりやすく説明する。こういった教員同士の学習や共有化の場を定期的に持つことで、互いに他分野の研究・社会貢献活動の手法を学び、刺激を与え合う。

2023年9月、最初の学部・研究科 FD 研修として、筆者（食物栄養科学科所属）が話題提供者（プレゼンター）を務めた。その概要を以下に記す。

研修第1回ということもあり、プレゼンテーションの最初に「今後の進め方」を提案した。「研究」と「社会貢献」の活性化や資質向上を図る取り組みであることを意識する。2学科2専攻からなる複合学部として相互に刺激し合うことを目指し、異なる分野の「他者」を意識する。学術的な「完全さ」や「系統性」より「直観的なわかりやすさ」や「面白さ」を優先する。

続いて、筆者がその出身分野である「物理」の研究を志すきっかけとなった古い啓蒙書の内容の一部として、20世紀初頭のルイ・ド・ブロイによる「物質波仮説」提唱の経緯を紹介した。この本の著者は、この事例を取り上げることで、研究を飛躍させる上での「想像力（イマジネーション）」や「類推（アナロジー）」の重要性を強調していた。この本を中学時代に読んだ筆者はこの点に大いに魅かれ、そのことが物理学研究を志すきっかけとなった。

さらに、類推思考が「研究」だけでなく「商品開発」においても重要な役割を果たす事例として、京菓子司『亀屋良長』の女将「吉村由依子」氏（本学部食物科学専攻卒業生）によるヒット商品「スライスようかん」開発の逸話を挙げた。

後半では、筆者が長年、ゼミで行ってきた「澱粉糊化に伴う粘度増大過程」の研究を紹介した。そこでも、研究を進める上での「考え方や発想」に焦点を当てた。具体的には、「澱粉分散液の粘度増大」と「セメント（可塑・結着剤）に砂利（骨材）を加えることによるコンクリートの増強」の間に、「団粒構造形成」という共通性があること。澱粉の熱水糊化時と低温 NaOH 糊化時の粘度増大曲線の形の違いを説明する速度モデルの構築において、中学理科の電気回路における「抵抗の直列/並列つなぎの合成則の違い」が「類推」として役立ったこと。しかし、それをさらに進展させるにあたっては、その類推を捨て「数学的な一般化」が有効であったことなどを紹介した。最後に、最近の成果として、澱粉糊化現象の特性に「協同性と孤立性」や「集団同期機構」といった、現代物理学のトピックスとの共通性（非線形概念）が見え始めてきた点に注目していることを伝えた。

◆大学院研究科 FD◆

大学院文学研究科 FD 報告

文学研究科長 椎名 亮輔

昨年度は、日本語日本文化専攻において、大学院生のニーズを知り、よりよい教育活動に生かすために、大学院生との懇談を実施した。今年度は、英語英文学専攻と情報文化専攻において、同様の目的のためにそれぞれの専攻において大学院生からの聞き取り調査を行った。

まず英語英文学専攻においては、修士論文発表会（2024 年 2 月 2 日）後、大学院生（博士課程前期 1 年次生 2 名）からの意見を収集した。以下、主として研究環境、研究リソース、授業履修に関する要望が寄せられた。

研究環境について、日曜日のラーニングコモンズや図書館の利用、純正館でのラップトップ貸し出し時間の延長など要望があった。さらに、研究室で指導を受けることも多く、Wi-Fi 環境を整えてほしいといった意見もあった。

教育リソース（資源）については、研究の利便性を図るために、Krashen、Canal and Swain、Long、Cummins などの主要な応用言語学者による代表的仮説を扱う文献を、図書館だけでなく大学院研究室にも配置してほしい。授業履修については、閉講授業（履修者がゼロの科目）のシラバスが閲覧できないが、次年度の授業選択の参考にするために、大学院の全科目のシラバスを閲覧可能にしてほしいといった要望があった。

次に情報文化専攻においては、日程の調整が難しく、代わりに 7 名から Forms で要望を聞く機会を設けた。

それによれば、まず、設備面が不十分で共同研究室が利用しづらいという意見があった。

また、調査技法に関する授業の充実など、科目やカリキュラムの内容についても要望が見られたので、今後のカリキュラム改正の際の検討事項にしていきたいと思う。

さらに、社会人学生から時間割、オンライン授業、集中講義等についての要望が多くあった。

以上のように、今回の調査・聞き取りによって、主な要望を明記したが、両専攻ともに、教育研究環境・教育内容および制度的問題などにおいて、さまざまな問題を大学院生たちが感じていることが明らかになった。また、情報不足により、施設利用や制度について、十分理解できていない点も明らかになり、今後、オリエンテーション等で周知するよう改善していきたい。

なお、これらの要望は、さっそく 2 月 9 日開催された文学研究科委員会で、両専攻主任より報告していただき、教員間で共有することができた。昨年度の日本語日本文化専攻における課題とともに、専攻科内において改善できる部分は早急に取り組み、会議などにおいてさらに共有し、知恵を出し合うことで、改善の道を探っていきたい。

◆大学院研究科 FD◆**大学院国際社会システム研究科 FD 報告**

国際社会システム研究科長 日下 菜穂子

国際社会システム研究科では、国際社会と国際交流に関する知見、及び現代社会の諸領域についての宗教学的、社会的、心理学的、教育学的知識を学ぶことにより、国際問題や現代社会に関わる問題についての理解力と解決力を身につけ、国際的にまた、多様な領域で活躍できる人材の養成に力を入れている。こうした人材を育成する上で、重視しているのが、国や文化を越えた共生社会の構築に資する知見の探求である。「国際協力と国際交流」（文化・経済・環境政策面での国際協力と国際交流）「現代社会と文化」（各国・各地域の文化的多様性と社会の調和）「現代社会とこども」（教育的な面からの現代社会とこどもの関わり）という 3 分野を設定し、これら 3 分野にわたる総合的知見を身につけた研究を進展させることで、高度な職業的専門人を育成することを教育目的としている。

この教育目的に照らし、2019 年度から研究科委員会の会議後の春と秋の 2 回、FD 研修会を行っている。2023 年度は、統合的な指導に活かすために、大学院生のそれぞれの履修状況や研究課題、研究の進捗状況について、直接の指導教員とともに全教員が情報共有し、大学院生の現状と今後の研究計画を把握した。2023 年 11 月 9 日には、修士論文中間報告会が、ラーニングコモンズ・イベントエリアにおいて開催された。当日の参加者は、修士課程 2 年の 5 名の大学院生と学部学生および教職員であった。修士課程 2 年の 5 名からの中間報告に対して、教員からの助言とともに院生間の活発な質疑応答もなされた。大学院生の修士論文指導とともに、それぞれの各大学院生の研究の進捗状況を把握する機会となった。さらに大学院生の研究進捗状況をより細かく把握するために、中間報告会に加えて、2020 年度より毎年 1 月に「研究進捗状況報告書」を大学院生に提出させている。この報告書に基づき、全教員がすべての在学生の研究内容を把握することにより、教育の質を高めることに役立っている。

今後の課題としては、国際社会システム研究科では、指導教員の研究方法論も専門とする領域も多岐にわたることから、修士論文提出時における研究科共通の形式を整えていくことがあげられる。国際社会システム研究科としては、FD 研修会を継続しながら、上記の「研究進捗状況報告書」を活用し、さらには教員間の連携をはかりつつ、学生のニーズや状況に合わせた丁寧な指導を今後とも行っていくこととしている。

◆大学院研究科 FD◆**大学院薬学研究科 FD 報告：大学院 FD・大学院教育への取り組み****研究室紹介：医薬品製造化学研究室**

薬学研究科長 芝田 信人

薬学研究科医療薬学専攻（4 年制課程）は 2012 年に開設され、高度化した薬物治療における医療と創薬科学をつなぐ医療薬学の研究・実践によって、難病の克服や医薬品の安全使用などの社会的要請に応え、大学・研究所、医療機関、民間企業や地方自治体で医療薬学の充実や指導者として社会に貢献できる人材の育成を目的としています。現時点で、9 名の博士（薬学）を育成してきましたが、2023 年度時点での大学院生在学数は 4 名で、医薬品製造化学研究室主宰の白井隆一教授のもとでは、1 名の大学院生が在籍しています。

白井隆一先生の研究テーマは、医療の現場で必要とされる新しい医薬品の開発に焦点を当てています。そのためには、薬効を期待できる合理的な作用機序に基づいて、その設計図である構造式を描き、精密な有機化学反応を駆使して構築する必要があります。これには、複雑な構造の化合物を合成可能にするための新反応の開発、化合物への薬効の付与方法、化合物の構造のデザイン、そして合成工程に関する研究が含まれます。このような多岐にわたるサイエンスを展開することで、医薬品の創製に貢献されておられます。

現在、白井隆一先生の主要な研究領域は、光学活性化合物を創出する不斉反応の開発とその応用です。具体的には、新しい抗がん剤や酵素阻害剤の全合成に取り組んでおられます。例えば、トロバ酸は抗ムスカリン作用を持つアトロピンの構成要素であります。両異性体間に薬効の 100 倍近い差があることが知られています。こうした問題に対処するため、白井隆一先生のご指導のもと、薬学研究科博士課程 3 年に在籍する川崎みどりさんは、光学活性な相間移動触媒を用いたラセミ体のトロバ酸の不斉転換反応をテーマに研究をされていますが、その研究により、博士課程進学者に給付される 2021 年度長井記念薬学研究奨励支援事業（日本薬学会）に採択され、さらに第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会（2022 年 10 月、摂南大学）において優秀口頭発表賞を受賞、日本薬学会第 143 年会（2023 年 3 月、北海道大学）において学生優秀発表賞（口頭発表の部）を受賞されています。

このように、白井隆一先生は大学院生の教育を通じて「社会の医療ニーズに応じた新規の医薬品開発につなげる薬の創生」をテーマとした研究を中心に展開しておられます。加えて、以上のような優れた研究成果は、白井隆一先生から指導を受けた大学院生の努力の賜物ともいえるでしょう。

それでは、白井隆一先生が医薬品製造化学研究室で実践されている日々の大学院生への研究指導に関してお話を伺いたと思います。

Q1. 医薬品製造化学研究室でのモットー（研究信条）は何でしょうか。

一言で表すならば「研究を楽しむ」でしょう。本来研究とは自分の中に湧いてくる学術的な好奇心や興味を抑えきれず、もっと知りたいから、やりたいからたまらなくて取り組むようなものだと思います。それは教員がお願いしてやってもらうものでもないし、指図されて嫌々やらされるものでもありません。医薬品製造化学研究室は研究の醍醐味を存分に味わってみたい学生にとってのパラダイスでありたいと願っています。

Q2. 大学院生の研究テーマの決定はどのように行われていますか。

大学院生自身が研究していて楽しいテーマであることが第一です。どのようなテーマであっても研究費はかかりますし、成果を出していくためには学生のたゆまぬ努力が必要ですし、指導する教員にも相応の責任が伴います。うまくいかないからと言って簡単に投げ出すようなテーマでも困ります。具体的な研究テーマを考えるにあたっては明確な目的や意義がそこにあるべきで、今どのようなことが学会、人間社会、さらには地球上で求められているか、そのためにはどのような研究をしていくべきだろうか、という視点を重視しています。今すぐに世のため人のためにならない基礎研究であっても、百年後に地球上の誰かがさらに発展させてくれるならば立派な研究テーマです。世界で初めての何かを目指し、目先の損得勘定を忘れて純粋にサイエンスに熱中できる研究テーマを大学院進学希望の学生とともに考えています。

Q3. 大学院生との研究に関するディスカッションはどのように行われていますか。

研究についてのディスカッションは新データが得られるたびに頻繁に行なっていますが、実験プランニングにおいては大学院生の自主性を尊重しているので、日々行う実験について細かい指示をすることは多くありません。その一方で、学会での発表準備（講演要旨、スライド、ポスター、発表原稿）や学術論文（欧文）の執筆時にはかなりの時間を割いてディスカッションしています。データの解釈はこれで正しいか、さらに必要な実験はないだろうか、反応機構の考察は適切だろうか、学会参加者や論文読者に研究内容が正確にかつ分かりやすく伝わるだろうか、などの事柄を徹底的にディスカッションしています。これまでに3回の国際会議を含め20回以上の学会発表を行っていますが、そのすべてにおいて綿密なディスカッションを経たうえで発表に臨ませています。

Q4. 大学院生は、より能動的に研究活動をする必要がありますが、そのためにはどのような指導が必要とお考えでしょうか。

最も大切なことは研究を楽しめているかでしょう。好きこそものの上手となれ、といいますが、いやだな、面白くないな、面倒くさいな、と思うようになったら研究そのものを避けるようになってしまいます。研究を楽しんでくれているならば放っておいても自ら進んで研究にのめり込み、次々に新しい研究成果を出してくれます。これからやってもら

うと思っていた実験を自分で考えて先回りして終わらせ、それはもうやりましたよ、みたいに言われることもあります。期待した成果が思うように得られないことは日常茶飯事です、それにめげることなく創意工夫でそれを乗り越えた時の何にも代えがたい達成感を知ると、少々の壁にぶつかったとしても挫けることなく、それを克服すべくたくましく立ち向かってくれるようになります。そのような成功体験をできるだけ多く経験させることを意識して日々の研究指導を行っています。

Q5. その他、先生のお考えの大学院教育についてお聞かせください。

大学院教育で最も重要なことは、将来独立した研究者として研究チームを率い、自ら創出した研究テーマに立ち向かうだけの実力を身につけさせること、研究指導者・教育者として後進の育成を担える力量を身につけさせることに尽きると思います。その上で最も重要なことはとにかくたくさん実験をすることでしょう。実験を通じて自然現象と対話していくことで科学者としてのセンスが磨かれていきます。自然科学のほとんどは実験化学ですので、実験がまともにできないようでは思ったように研究は進みませんし、実験の経験値が低いままでは後進の指導も満足にできません。大学院時代に山のように実験したすべてのことが、科学者としての将来の糧になっていくことは間違いありません。

あとがき：

白井隆一先生の研究室を訪れ、大学院生の研究指導についてのインタビューを通じて、熱心さと研究への情熱が伝わってきました。研究室では、大学院生の自らの考えを尊重し、積極的に研究に取り組むことを奨励されておられました。加えて、白井隆一先生は、研究活動を単なる課題解決の手段ではなく、自己成長や学術の探求の場として捉え、大学院生にその魅力を伝えておられました。

研究テーマの決定には明確な目的や意義が必要であり、社会的ニーズや将来の科学的挑戦に焦点を合わせたテーマを重視することに加え、大学院生の研究活動は教員の指示ではなく学生自身の意欲に基づき自主的に進められるべきであり、且つ、楽しみながら研究に没頭することが良い成果を生むというお考えは、大学院教育での至極のあるべき姿であると感銘した次第です。

最後に、白井隆一先生の研究室では、学生が自らの能力を最大限に発揮して自己実現を果たすことができるように指導されており、将来の研究者や教育者としての資質を身につけさせるという大局的な目標があることについても、インタビューを通して痛感いたしました。

白井隆一先生、インタビューありがとうございました。

◆大学院研究科 FD◆**大学院看護学研究科 FD 報告**

看護学部看護学科主任 小松 光代

大学院看護学研究科が開設されて 6 年目を迎え、今年度の在籍者は大学院博士前期課程 12 名、博士後期課程 6 名の計 18 名となった。看護学研究科の FD は、教員の研究能力に重きをおいて企画するとともに、看護学研究科に在籍する大学院生にも開放している。

今年度は、例年課題となる開催時期や時間設定に対応するために、一般社団法人日本看護系私立大学協会の研修動画を活用したオンデマンド形式により受講期間を 2 ケ月間設定して自由度もたせた企画とした。

テーマは、「質の高い看護学研究の計画から論文アクセプトまでのプロセス」とし、ねらいは、「看護学の発展に寄与する研究デザインに求められる各種ガイドラインや論文アクセプトまでのプロセスについて理解し、今後の研究活動や指導に生かすことができる」とした。

対象教員 33 名中、受講アンケートの回答は 15 名 (45.5%) と半数に満たなかったが、テーマ設定は「良い」93.3%、オンデマンド配信による方法が好評で、「視聴期間の設定」も「良い」86.7%であった。講義内容は、「よく理解」53.3%、「概ね理解」46.7%と例年と比べて「よく理解」の割合が高かった。この理由は、オンデマンド配信により繰り返し視聴が可能なことも一つではないかと推察している。回答者全員が研修内容を今後「活用できそう」60.0%、「まあ活用できそう」40.4%と回答していた。自由記載では、論文投稿のポイントがわかりやすく具体的に聞けた、英文投稿についても学べてよかった、論文が掲載されるまでの絶対あきらめない気持ちの大切さが伝わってきた、Q&A が良かった、博士後期課程での経験を通した若手研究者の講義は参考になる等であった。

今回のテーマ設定や内容、開催方法は概ね良好な反応が得られたが、アンケートの回収率が低く、受講確認が正確に行えていなかったことが課題である。今後もオンデマンド形式により「研究能力」の向上に寄与できるテーマでの開催を検討していきたい。

◆2023年度春学期 授業アンケート総評◆

2023年度春学期 授業に関するアンケート総評

同志社女子大学 教育開発支援センター長
和氣 早苗

1

はじめに

「授業に関するアンケート」は、個々の授業改善を第一の目的として実施されているが、全体を俯瞰することにより、全学的な傾向や各学科の特徴を見ることができ、それによってカリキュラムの妥当性を確認したり、FDの方向性を見いだすことができると考えている。

今回は、教員に対するリクエストや授業外学習時間にも着目した。リクエストについては、約1/5の科目でスライドや板書の工夫が求められていることがわかった。話し方に対してのリクエストも次に多かった。

この項目含め、今回の「授業に関するアンケート実施結果報告書」より、結果のまとめ方を変更している。より見やすく、わかりやすく、比較しやすいことを目指しての変更であり、これまでも増して、科目ごとまた学科科目でも授業改善に活用していただけたらと願っている。

※アンケートの方法

- 原則として全科目で実施
- 授業第13,14,15週目での実施（2023年7月10日（月）～8月6日（日））
- 「第14回目の授業開始時」の実施を推奨して教員に依頼
- マナビーを用いたオンライン形式
- アンケートの質問項目と回答方法は本報告書の付録1に記載

2

総評

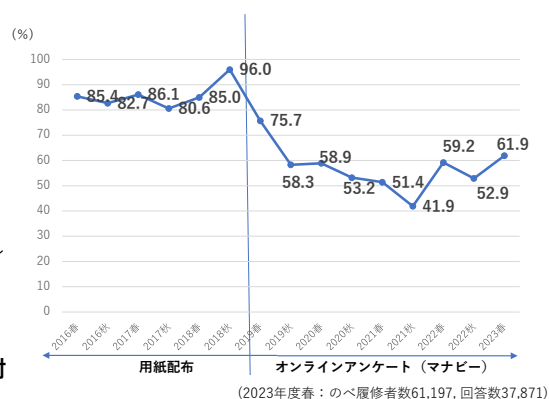
今期授業アンケートの総評として以下の7点を挙げる。
各項目の詳細について次ページ以降に述べる。

- (1) 回答率61.9%, 4年ぶりに60%を超えるも…
- (2) 対面授業の回答率がオンライン授業より高い
- (3) 全学総評価平均はますます良好
- (4) 19%の科目でスライド/板書の工夫が必要
- (5) 授業外学習は管理栄養士、薬学が多い
- (6) 授業で向上した力(DWCLA10)は思考力

3

(1) 回答率61.9%, 4年ぶりに60%を超えるも…

- **回答率… 61.9%** 4年(8学期)ぶりに60%を回復
- オンライン化してから2番目に高い回答率
- ただし今回、締切日の回答率は34.1%であった。
 - 締切を2日間延長
 - 全学生に直にメールで回答を促した
- ↓
- 教員を介しての、回答キャンペーン（教員に対しての14週目の実施依頼メール等）の効果は、なかったと言っていいだろう。
- 次期には、直接学生に向けた新たな回答率向上対策を検討、実施する。



授業アンケート回答率の推移

4

(2) 対面授業の回答率がオンライン授業より高い

- 対面授業の方が回答率が高い
- 今回、回答の約半数は回答を促すメール以降の回答だったにも関わらず、それでも対面授業の方が20ポイント程度回答率が高かった。
- 教員が直接対面で回答を促す効果のみならず、授業を通しての教員との距離感というのも回答率に影響しているかもしれない。

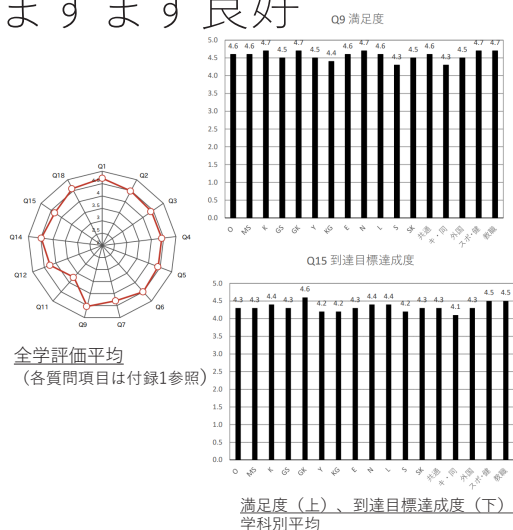
授業アンケート回答率

オンライン授業	44.30%
対面授業	64.60%
全体	61.90%

5

(3) 全学総評価平均はますます良好

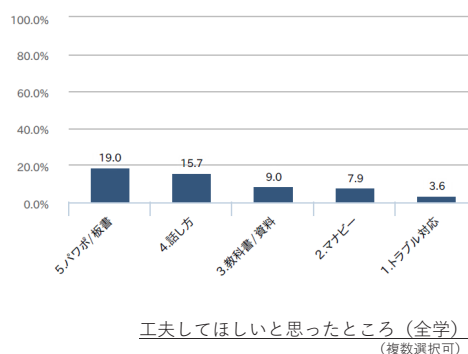
- 全体俯瞰では、**ほとんどの質問で平均評価4を超えており、総括としてはますます良好**な結果と思われる。
- 特に、**授業に対する満足度を問うQ9、到達目標を達成できたと思うかを問うQ15、の評価が学科を問わず良好**である点、評価してよいと思われる。
- 平均評価4を下回るQ11は「積極的な意見表明や質問」を問うものである。每期あまり変化なく同程度の評価となっている。授業の内容にもよるかと思うが、アクティブ・ラーニングなどの導入や質問しやすい仕組みなど、工夫の余地はあると考えられる。



6

(4) 19%の科目でスライド/板書の工夫が必要

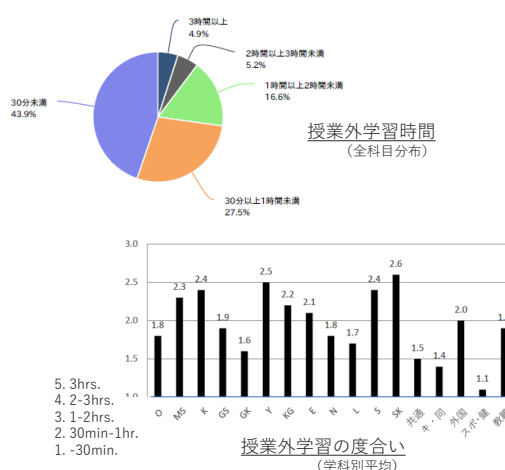
- 授業で工夫してほしいと思ったところは、**提示スライドや板書**が最も多く全科目の19%、次いで**話し方**が15.7%
- 全科目の1/5で提示スライドや板書についての改善が指摘されているのは、多いと言えるのではないかと。教員の努力が求められる。



7

(5) 授業外学習は管理栄養士、薬学が多い

- 約70%の科目は、授業外学習時間が1時間未満
- 約5%の科目は、授業外学習時間が3時間以上
- 学科比較では、管理栄養士専攻、医療薬学科、食物科学専攻など理系の学習時間が長い。国際教養学科も並んで多い。
(グラフの縦軸は学習時間ではないので注意)



8

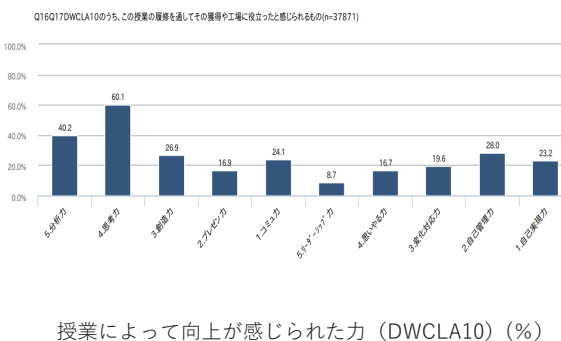
(6) 授業で向上した力(DWCLA10)は思考力 (全学平均)

- 授業で伸びたと感じる力は、
思考力(60.1%が選択)が最も多く、次いで
分析力(40.2%)であった。

→分析と思考は基礎として必要な力で、多くの授業で対象となる力でもあるため、多く選択されたと考えられる。

- 残りの項目についてはいずれも30%を下回っている。

→それぞれの授業に特徴があるため、必ずしも全体平均が高くなる必要はないものの、これからの時代に特に必要だとされる、**コミュニケーション力**、**プレゼンテーション力**などの力をつけるための授業の増加や、各授業内での工夫は望まれる。



9

おわりに

2023年度春学期の授業に関するアンケートの総評として、6項目を挙げ、その内容について述べた。

アンケート回答率を上げるため、3期にわたり教員に対しての回答率向上のキャンペーンを行ったが、今後は直接学生に対して訴えかける方法を検討する。

今回アンケート結果のまとめ方を見直し、学生が工夫を求めていることや授業外学習時間など、これまでよりも見やすくなったのではないかと考えている。各教員が個別の結果に基づいて授業改善を行っていただくことはもちろんだが、学科、学部あるいは全学的な授業改善およびカリキュラムの変更などにおいても、本授業アンケートを利用していただけたらと考えている。

10

付録1：アンケート項目 と 回答基準(次ページ)

Q1	授業内容はシラバスに合っていましたか。
Q2	受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
Q3	授業レベルは自分に合っていましたか。
Q4	教員からの一方的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
Q5	提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
Q6	言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
Q7	自主学習を促す工夫がなされていましたか。
Q8	工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。 1.分かりやすいパワーポイントや板書 2.聞き取りやすい話し方 3.教科書や配布資料の活用 4.マナビーの活用 5.トラブルへの対応
Q9	この授業は全体として満足できる内容でしたか。
Q10	この授業の予習、復習、自主学習（授業時間90分を除く）に1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。
Q11	あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
Q12	あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
Q13	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1.授業内容に興味・関心があった 2.授業方法に興味・関心があった 3.成績評価方法・基準に興味・関心があった 4.先輩や友人等の勧め 5.卒業又は免許・資格の取得に必要なから
Q14	到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
Q15	あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
Q16	DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。*15番と16番は1つの質問として回答してください。 1.分析力 2.思考力 3.創造力 4.プレゼンテーション力 5.コミュニケーション力
Q17	(16番続き) DWCLA10のうち、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。 1.リーダーシップ 2.思いやる力 3.変化対応力 4.自己管理能力 5.自己実現力
Q18	※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。 遠隔での授業は滞りなく行われましたか。
Q19	任意項目
Q20	自由記述欄（上記回答の理由など、特記事項があれば記入してください。）

11

[回答基準] Q1～Q7、Q9、Q11～Q12、Q15、Q18 Q14
5:そう思う Agree 4:ややそう思う Somewhat Agree 3:あまりそう思わない Somewhat Disagree 2:そう思わない Disagree その他:未回答 Unanswered

Q8:
5.分かりやすいパワーポイント板書 Effective use of teaching aids such as power point slides or boardwork
4.聞き取りやすい話し方 Clear and strong voice
3.教科書や配布資料の活用 Effective use of textbook and handouts
2.マナビーの活用 Effective use of Manabi system
1.トラブルへの対応 Trouble shooting
その他:未回答 Unanswered

Q10:
5.3時間以上 3hrs. or more.
4.2時間以上3時間未満 2hrs. to less than 3hrs.
3.1時間以上2時間未満 1 hr. to less than 2hrs.
2.30分以上1時間未満 30min. to less than 1 hr.
1.30分未満 less than 30min.
その他:未回答 Unanswered

Q13:
5.授業内容に興味・関心があった Interest in the class contents
4.授業方法に興味・関心があった Interest in the method of class instruction
3.成績評価方法・基準に興味・関心があった Interest in the grading method
2.先輩や友人等のすすめ Recommendation from seniors or friends
1.卒業又は又は免許・資格取得のための必修科目だから Requirement for the graduation and specific license or qualification
その他:未回答 Unanswered

Q16:
5.分析力 Analytical ability 4.思考力 Thinking power 3.創造力 Creative ability 2.プレゼンテーション力 Presentation skill 1.コミュニケーション力 Communication skill
その他:未回答 Unanswered

Q17:
5.リーダーシップ力 Leadership 4.思いやる力 Capacity for compassion 3.変化対応力 Responding to change 2.自己管理能力 Self-management power
1.自己実現力 Ability for self-realization その他:未回答 Unanswered

12

付録2：学科および科目区分の略称

略称	学科および科目区分
O	音楽学科科目
MS	メディア創造学科
K	国際教養学科科目
GS	社会システム学科科目
GK	現代こども学科科目
Y	医療薬学科科目
KG	看護学科科目
E	英語英文学科科目
N	日本語日本文学科科目
L	人間生活学科科目
S	食物栄養科学科食物科学専攻科目
SK	食物栄養科学科管理栄養士専攻科目
共通	共通学芸科目
キ・同	キリスト教・同志社関係科目
外国	外国語科目
スポ・健	スポーツ・健康科目
教職	教職科目

◆ラーニング・コモンズ 利用報告◆

2023 年度は 6 月より、利用者間の間隔を保つ等の工夫をしながら座席数を元通りの数に戻した。また、日曜日は昨年度に引き続き閉館であった。

(2024 年 3 月現在)

1. 2023 年度 イベント実施状況

◇京田辺キャンパス 聡恵館ラーニング・コモンズ

月	イベント名
4 月	クラブ新入生勧誘ブース出展（学生支援課）
	生態学実習 2023（薬学部）
	新入生図書館オリエンテーション
	LC ツアー（LC スタッフ）
	サステイナブル研究会のこれまでと衣類交換会のための衣類回収
	キャリア・資格取得支援講座 説明・相談会
	オープンキャンパス
	医療製剤学研究室セミナー（薬学部）
5 月	新入生図書館オリエンテーション
	上映会（ライブラリーサービス課）
	衣類交換会（サステイナブル研究会）
	パネル展ーフードドライブー（サステイナブル研究会）
	医療製剤学研究室セミナー（薬学部）
6 月	オープンキャンパス
	合同授業（薬学部・看護学部）
	日本医療薬学会 「第 6 回フレッシューズカンファランス」（薬学部）
	「薬学研究Ⅲ」論文発表会（薬学部）
	医療製剤学研究室セミナー（薬学部）
	栄光会

月	イベント名
7 月	留学前ポスターセッション（国際教養学科）
	医療製剤学研究室セミナー（薬学部）
	夏祭り（学生会）
	フードドライブ - レシピキャンペーン - （サステイナブル研究会）
	「キャリアと産む・産まないをめぐるもやもやダイアログ」 （女性アクティベーションセンター）
	6 年次生ガイダンス（薬学部）
	特別授業「プランニング演習」（メディア創造学科）
	オープンキャンパス
	「キャリアのためのプロジェクト演習」 最終発表会 （キャリア支援部）
	「メディア創造基礎演習 C」 合同発表会（メディア創造学科）
8 月	スポーツフェスティバルリハーサル
	オープンキャンパス
	「こどパ 18th」 保護者向け上映会会場
	夏期集中教育課程研究会（免許・資格課）
9 月	vision150 イメージのビジュアルデザイン発表会
	オープンキャンパス
	キャリア・資格取得支援講座 説明・相談会（キャリア支援部）
	6 年次生 9 月学習相談会ガイダンス（薬学部）
10 月	ランチタイムミュージック（ライブラリーサービス課）
	先輩の Pechakucha を聞いてみよう（メディア創造学科）
	加藤ゼミ合同授業（現代社会学部）
	OVER/UNDER オープニングセレモニー（メディア創造学科）
	フードドライブ（サステイナブル研究会）
	コンタクトケース回収（サステイナブル研究会）
	朱ゼミ合同授業（現代社会学部）
	京田辺留学生歓迎会（国際課）
	女性ヘルスケアカフェ（薬学部）
	メディア創造学科講演会（メディア創造学科）
	この本いいね！フェア 2023（ライブラリーサービス課）
	キャリアカフェ（キャリア支援部）
	アニバーサリーホームカミングデー2023
	スポーツフェスティバル

月	イベント名
11 月	本学創立 150 周年記念 ロゴ・キャッチコピー学生提案展示（広報課）
	「Overseas Study Preparation II/留学事前指導 II」（国際教養学科）
	大河ドラマ「どうする家康」展（総務課）
	「Overseas Study Preparation II/留学事前指導 II」（国際教養学科）
	国際社会システム研究科修士論文中間報告会（現代社会学部）
	国際看護活動論グループワークプレゼンテーション（看護学部）
	キャリアカフェ（キャリア支援部）
	女性のためのヘルスケアカフェ セミナー（薬学部）
	Mechakucha 1（メディア創造学科）
	AED 操作体験（学生支援課）
	現代社会学部 20 周年記念事業 卒業生インタビュー（現代社会学部）
	6 年次生 11 月 学生相談 ガイダンス（薬学部）
	キャリアカフェ（キャリア支援部）
12 月	クリスマスツリー点灯式
	「Overseas Study Preparation II/留学事前指導 II」（国際教養学科）
	「Overseas Study Preparation II/留学事前指導 II」（国際教養学科）
	女性のためのヘルスケアカフェ セミナー（薬学部）
	オープンキャンパス
	「学芸学部ジョイントプログラム」
	国際ミニカンファレンス、ワークショップ、展示会（メディア創造学科）
	ボランティア活動発表会（宗教部）
	「プロジェクトプランニング演習 II」BESIDE production（メディア創造学科）
1 月	A0 入学者選抜合格者集合学習（入学課）
	女性のためのヘルスケアカフェ セミナー（薬学部）
	カイロ・コンタクトケース回収（サステイナブル研究会）
	Pechakucha awards 2023
	「マーケティング論」最終発表会
2 月	Mechakucha 2
	国際社会システム研究科修士論文発表会（国際社会システム研究科）
2 月	2023 年度 メディア創造学科 進級制作展（メディア創造学科）
3 月	オープンキャンパス

◇今出川キャンパス 楽真館ラーニング・commons

月	イベント名
4 月	英文 Expo2023（英語英文学科）
	「絵本研究」作品展示
	学生会主催 新入生歓迎イベント
	中・長期受入れ留学生 2023 年度春学期歓迎会
	パネル展（サステナブル研究会）
	キャリア・資格取得支援講座 説明・相談会
	2022 年度秋学期セメスター語学留学事後報告会
	表象文化 Café「百人一首かるたと第二次世界大戦」（吉海直人）
	オープンギャラリー展示「サステナブル研究会パネル展示」
	オープンキャンパス
	衣料品回収（サステナブル研究会）
	ビッグ・リトル交流会
	サステナブル研究会(現代社会学会所属)による新入生に向けた説明会
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
5 月	ラーニングcommons学生スタッフ新規募集説明会
	パネル展（サステナブル研究会）
	衣類交換イベント（サステナブル研究会）
	～Time travel from EAST to WEST～
	表象文化 Café「人生のショートカット」（若本夏美）
	学生音声ラジオの収録
	ラーニングcommons学生スタッフ新規募集説明会
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
6 月	オープンキャンパス
	住居系実習で製作した模型などの展示会
	おどり・京炎そでふれ！花風姿 17 代目引退式
	表象文化 café「ジョン王と鎌倉殿ーパラレルワールド日本と英国ー」（森山由紀子・辻英子）
	オープンギャラリー展示 「サステナブル研究会 フードドライブ&レシピキャンペーン告知」
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	ゼミ交流会（英語英文学科）

月	イベント名
7 月	第 38 回総会・記念講演会（同志社女子大学日本語日本文学会）
	LC STAFF 企画部門 セミナー
	ポスター展示（サステナブル研究会）
	オープンギャラリー展示「天平祭×同女コレクション 今出川 ver.」
	英語英文学専攻修士・博士論文発表会（英語英文学専攻）
	同コレ！天平祭×同女コレクション 今出川 ver.
	第 21 回ポスターセッション（英語英文学科）
	スピーチクラス発表
	ポスター展示（サステナブル研究会）
	レシビキャンペーン（サステナブル研究会）
	WHITE WORK 2023
	学生ラジオ収録
	表象文化 café『「炎上」作家エドガー・A・ポー』（福島祥一郎）
	オープンキャンパス
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
8 月	オープンキャンパス
	中・長期受入れ留学生 2023 年度春学期修了式
	大文字の送り火 観覧の会 イベント待機前参加者の待機スペース
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
9 月	英語英文学専攻 博士論文中間発表会（英語英文学専攻）
	生化学ゼミ リユニオン（食物栄養学科）
	オープンキャンパス
	『こむらさき』ワークショップ文章講座
	2023 年度 Japanese Studies Program・アジア中長期留学生受入れプログラム 歓迎会
	キャリア・資格取得支援講座 説明・相談会
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	9 月卒業式

月	イベント名
10 月	入試対策講座
	多様性ワークショップ 1 回目（英語英文学科）
	オープンギャラリー展示「サステナブル研究会イベント告知」
	環境計画学研究室・都市空間研究室 卒業論文中間発表会（人間生活学科）
	A K P 留学生と同女学生の交流会
	多様性ワークショップ 2 回目（英語英文学科）
	2023 年度春学期セメスター語学留学事後授業（事後報告会）
	表象文化 café『谷崎潤一郎×小津安二郎「草稿から浮かび上がるドラマ』』（宮本明子・大津直子）
	多様性ワークショップ 3 回目（英語英文学科）
	ラーニングcommons 新規スタッフ募集説明会
	この本いいね！フェア プロモーション
	キャリアカフェ
	言語交換パートナーマッチング交流会
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	創立 150 周年 記念ロゴ・キャッチコピー学生提案展示
11 月	メディアコンテンツ収録（広報課）
	オープンギャラリー展示『「くらし色彩学」の課題展示』
	表象文化 café「坊主めくりの秘密」（吉海直人）
	エアライン業界対策準備講座
	メディアコンテンツ収録（広報課）
	EVE
	エアライン業界対策準備講座
	避難訓練（AED 及び胸骨圧迫体験）
	「ユニバーサルデザイン演習」 作品展
	オープンギャラリー展示『「くらしのデザイン特殊演習 D」の課題展示』
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	キャリアカフェ

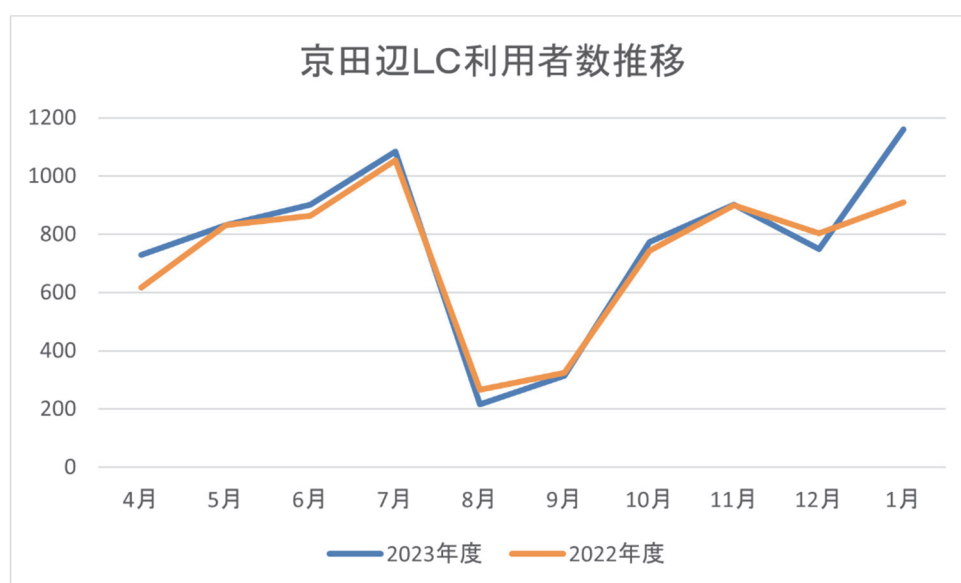
月	イベント名
12 月	入試対策講座
	京丹後フィールドワークの成果発表会（地域計画学演習）
	小原流華道部 体験会
	スピーキングコンテスト
	「華麗なる平安装束の世界ーその復元と変遷」（大津直子）
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	Speak ! Share ! Inspire!
	2023 年度 Japanese Studies Program 修了式
	オープンキャンパス
	クリスマスイベント ビンゴ大会
	表象文化 café「ホリデー・フレーバーーイギリスのクリスマス料理ー」（山本由実・浮網佳苗）
	Academic Skills 発表会（英語英文学科）
	こどもの教会 クリスマス会
1 月	H I H U K U 展
	3、4 年ゼミの交流会（英語英文学科）
	パネル展示とカイロ&コンタクトレンズケース回収（サステナブル研究会）
	卒業制作展 インテリアデザイン実習 優秀作品展
	表象文化 café「ジャーナリズムかフィクションかーディケンズと『万引き家族』」（木島菜菜子）
	卒業研究発表会（英語英文学科）
	吉海直人先生最終講義 茶話会
	撮影（広報課）
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
	食品開発プロジェクト成果発表会
2 月	英語英文学専攻修士論文・授業計画発表会（英語英文学専攻）
	卒業論文発表会（人間生活学科）
	日学のつどい
	オープンギャラリー展示「表象文化 Café テーマ展示」
3 月	探究 NEO 研究発表会
	オープンキャンパス

2. 2023 年度 月ごとの平均利用者数

ラーニング・コモンズでは、1 時間ごとに各エリアにいる利用者数を確認している。以下の表は、その利用者数の合計を月ごとに算出したものである。月ごとの利用者合計数を開館日数で割ることにより、各月の平均利用者数を算出した。

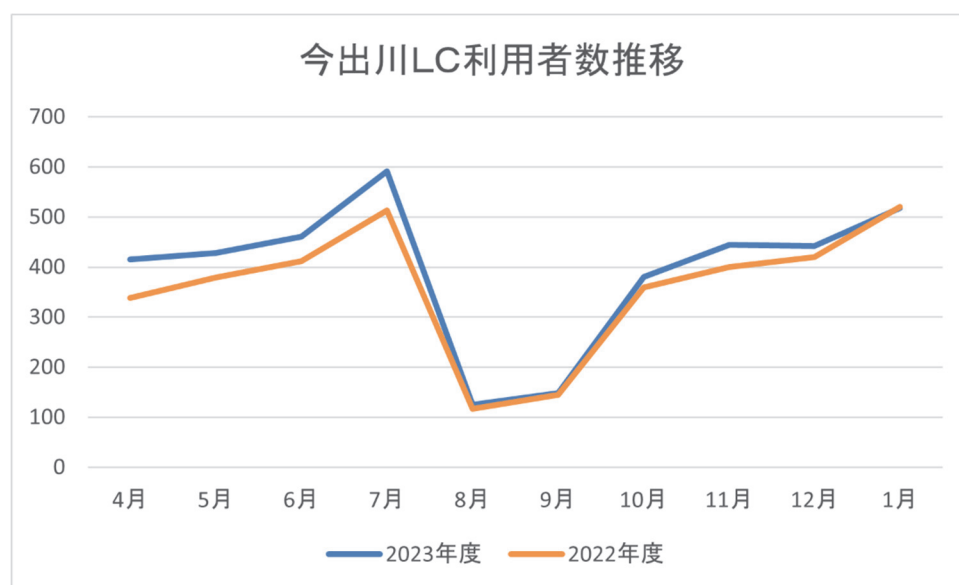
◇京田辺キャンパス 聡恵館ラーニング・コモンズ

	2023 年度			2022 年度		
	開館 日数	月利用者 合計数	利用者数平均 ／日	開館 日数	月利用者 合計数	利用者数平均 ／日
4 月	23	16,770	729.13	24	14,812	617.17
5 月	22	18,301	831.86	22	18,275	830.68
6 月	26	23,435	901.35	26	22,478	864.54
7 月	26	28,178	1083.77	26	27,429	1054.96
8 月	17	3,659	215.24	15	3,995	266.33
9 月	21	6,603	314.43	20	6,469	323.45
10 月	26	20,129	774.19	26	19,324	743.23
11 月	22	19,849	902.23	22	19,797	899.86
12 月	21	15,721	748.62	21	16,861	802.90
1 月	18	20,880	1160.00	17	15,474	910.24



◇今出川キャンパス 楽真館ラーニング・commons

	2023 年度			2022 年度		
	開館 日数	月利用者 合計数	利用者数 平均／日	開館 日数	月利用者 合計数	利用者数 平均／日
4 月	23	9,539	414.74	23	7,794	338.87
5 月	22	9,411	427.77	22	8,348	379.45
6 月	26	11,982	460.85	26	10,694	411.31
7 月	26	15,389	591.88	26	13,331	512.73
8 月	17	2,117	124.53	15	1,750	116.67
9 月	21	3,107	147.95	20	2,896	144.80
10 月	26	9,897	380.65	26	9,348	359.54
11 月	22	9,768	444.00	24	9,606	400.25
12 月	21	9,285	442.14	21	8,812	419.62
1 月	22	11,391	517.77	18	9,375	520.83



※2023 年度は、日曜日を閉館とする以外は開館日数に大きな変更点なく開館。

2. 2023 年度 ICT 機器貸出件数集計

◇京田辺キャンパス 聡恵館ラーニング・コモンズ

2023 年度 ICT 機器貸出集計 (月別集計)	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
ノート PC	690	675	552	514	70	141	505	457	333	236
マウスセット	65	91	73	67	12	14	43	44	45	28
タッチペン	3			1					1	1
ヘッドホン	179	165	205	187	16	45	179	133	107	84
ヘッドセット	3	7	7	1		2	2	1	1	
HDMI ケーブル	5	1	4	7	1	4	5	9	2	3
HDMI アダプター	9	2	14	12	5	8	8	13	2	6
HyperDrive			1	1			2		1	
プロジェクター	1		1	1			2	1		
レーザーポインター							1	1		
スクリーン (大)										
スクリーン (小)	1		2	1	1	1				
教材提示装置										
デジタル一眼レフカメラ									1	
microSD (カメラ用)									1	
ビデオカメラ										1
microSD (ビデオカメラ用)										1
ビデオカメラ用マイク										1
SD カードリーダー									1	1
三脚			1							1
PC 用 DVD ドライブ		2	5	1			7	2	1	3
Blu-ray Disc/DVD プレイヤー			1				1			
デジタルペーパー										
e-黒板セット										
IC レコーダー										
延長コード 5m	6	7	12	23	2	3	12	22	12	11
延長コード 10m	4	1	3	3			1	4	2	2
VGA ケーブル (D-sub)					1					
音声プラグ					1					
リモコン&タッチペンセット (BIG PAD 用)										
・1 階インフォメーション用 B・C・D・E	4	1	7	4	4	5	3	1		

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
・2階ケルーフステイルーム E	2		1	3	2	2	2			
リモコン（プロジェクター用） 1階インフォデイナー A・F	2		2	2	2	2				
その他	2	5	10	4	1	5	3	3	1	

◇今出川キャンパス 楽真館ラーニング・commons

2023年度 ICT 機器貸出集計 (月別集計)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ノート PC	104	64	69	118	17	17	73	91	91	52
PC 用マウス	67	39	30	62	7	6	47	46	66	33
ヘッドホン	16	8	4	12	1	3	14	19	10	7
ヘッドセット	3	1	1	1	2		3		1	
レーザーポインター			1							
Blu-ray Disc/DVD プレイヤー	3		3	3	1	1		3	1	2
教材提示装置	1					1				
延長コード	8	5	2	4	3	2		3	2	4
インフォデイナーケーブルセット（プロジェクター用）			2							1
ケルーフステイブ-スケールセット (プロジェクター用)	3	4	2	7	1	1	4	1		4
プロジェクター（大）No. 1～4 ※SONY			2	2	1	1		1	1	
プロジェクター（小）No. 5～6 ※EPSON	3		2	4	2	2		2	2	
スクリーン（100 インチ） No. 1～3	2		2	2	2	3			2	
スクリーン（60 インチ） No. 5	2		1						1	
スクリーン（50 インチ） No. 4	1		1	1	1				1	
ビデオカメラ										
ビデオカメラ用マイク（コンデンサーステレオマイクロホン）										
IC レコーダー										
デジタル一眼レフカメラ		1							1	
三脚		1			1					
PC 用ドライヴ	1		1			2	1	1		
ポインター（クリッカー） Canon	2	4	2	2			3	1		
デジタルペーパー										
HDMI ケーブル	1		1	2	1	1			2	2
SD カード / microSD カード		1							1	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
舞台スカート（大）	2				1					
舞台スカート（小）	2				1					
カメラシューマウント										
マイクホルダー	1				1	2			3	
マイクスタンドネジ変換アダプター						1				
Mac 変換アダプター										
iPad/iPhone 変換アダプタ	1							1		
android 変換アダプタ （type-C 変換アダプタ）	2	1	1			1	1			6
メモリーリーダー										
e-黒板（電子黒板用キット）										
■（特例） デジタルサイネージ	2		2	2	2					
■（特例） PC 電源コード	8		7	7	7	7	2		14	16

◆FD 活動報告（2023 年度）◆

1. 本学 F D 関連事業

月	内 容
5 月	・ 2023 年度春学期授業に関するアンケート実施案内
6 月	・ 2022 年度秋学期成績統計資料配布 ・ 2022 年度秋学期 授業振り返りシート まとめ資料 科目代表者送付
7 月	・ 2023 年度春学期（授業期間内開講科目）授業に関するアンケート実施 【実施期間：2023 年 7 月 10 日（月）～ 8 月 4 日（金）】 ・ 第 3 回 FD 講習会 開催 [教員 120 名、職員 5 名 参加]
8 月	・ 2023 年度春学期（夏期集中講義科目）授業に関するアンケート実施 【実施期間：2023 年 8 月 21 日（月）～ 9 月 10 日（日）】 ・ 2023 年度春学期授業に関するアンケート実施結果個票配付・公開
9 月	・ 2023 年度春学期授業振り返りシートの提出 ・ 第 1 回 FD Session 開催 [教員 196 名、職員 3 名 参加]
10 月	・ 2023 年度秋学期授業に関するアンケート実施案内 ・ 2023 年度春学期成績統計資料配布
11 月	・ 2023 年度春学期 授業振り返りシート まとめ資料 科目代表者送付
1 月	・ 2023 年度秋学期授業に関するアンケート実施 【実施期間：2024 年 1 月 5 日（金）～2 月 9 日（金）】
2 月	・ 2023 年度秋学期授業に関するアンケート実施結果配付
3 月	・ 2023 年度秋学期授業振り返りシートの提出 ・ 2023 年度 FD レポート第 17 号発行 ・ 2023 年度秋学期授業に関するアンケート総評 公開

2. 学外におけるFD関連セミナー等案内及び参加者一覧

以下のとおり学外で開催されたFD関連セミナー等について教職員に向けて周知を行いました。

月（周知）	セミナー名・テーマ	主催	参加者
4 月	4 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
5 月	FD 推進ワークショップ	一般社団法人日本私立大学連盟	—
	5 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
6 月	6 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
7 月	2023 年度京都 FD 交流会	公益財団法人大学コンソーシアム京都	—
	2023 年度 IR フォーラム	大学コンソーシアム京都/株式会社リアセック	—
	7 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
8 月	教育イノベーション大会 「AI 時代の教育と人材育成を考える」	公益社団法人私立大学情報教育協会	—
	2023 年度教員研修・養成講座	一般財団法人全国大学実務教育協会	—
9 月	教育改革 FD ICT 理事長・学長等会議	公益社団法人私立大学情報教育協会	—
	9 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
11 月	2023 年度分野連携アクティブ・ラーニング対話集会	公益社団法人私立大学情報教育協会	—
12 月	12 月 manaba オンライン講習会のご案内	株式会社朝日ネット	—
	第 29 回 FD フォーラム「DX・AI 時代の高等教育のゆくえ」	公益財団法人大学コンソーシアム京都主催	教員 17 名、 職員 4 名

F D レポート 第 17 号

2024 年 3 月 発行

同志社女子大学 教務部 教育開発支援センター

〒610-0395 京都府京田辺市興戸

TEL (0774) 65-8413 FAX (0774) 65-8418

E-mail : kyoiku-t@dwc.doshisha.ac.jp

ホームページ : <https://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

